Panasonic

デジタルカメラ

取扱説明書

品番 DMC-LC5

保証書別添付

MultiMediaCard™

LEICA
DC VARIO-SUMMICRON

このたびは、デジタルカメラをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
保証書は､「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

VQT9460-2

もくじ

[準備]

[撮る・基本]

[撮る・応用]

[見る]

[編集する]

[使いこなす]

[その他]

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です）**

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠危険

バッテリーを分解、加工(はんだ付けなど)、加圧、加熱、火中投入などをしない

禁 止

液もれ・発熱・発火・破裂につながります。

●不要(寿命)になったバッテリーについては 102 ページをご参照ください。

バッテリーの端子部(⊕と⊖)に金属物(ネックレスやヘアピンなど)を接触させない

禁 止

液もれ・発熱・発火・破裂につながります。

●ビニール袋などに入れ、金属物と接触させないようにしてください。

バッテリーを炎天下(特に真夏の車内)など、高温になるところに放置しない

禁 止

液もれ・発熱・発火・破裂につながります。

⚠警告

煙が出ている、異常に熱い・におい・音がするときなどは、使うのをやめ、AC アダプターを抜く

ACアダプターを抜く

火災・感電につながります。

●バッテリーで使っている場合は、バッテリーを外してください。
●販売店にご相談ください。

内部に水や異物などが入ったときや外装ケースが破損したときは、使うのをやめ、AC アダプターを抜く

ACアダプターを抜く

火災・感電につながります。

●バッテリーで使っている場合は、バッテリーを外してください。
●販売店にご相談ください。

自動車など、乗り物を運転しながら使わない

事故の誘発につながります。

禁　止

●歩きながら使うときも、周囲の状況、路面の状態などに十分ご注意ください。

雷が鳴り出したら、本機の金属部や AC アダプターのプラグにふれない

接触禁止

落雷すると、感電につながります。

⚠警告

内部に金属物や燃えやすいものなどを入れない

火災・感電・故障につながります。

●乳幼児にご注意ください。

ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定なところに置かない

落下すると、けがや製品の故障につながります。

不安定な状態で使わない

転落すると、死亡や大けがにつながります。

●安定した足場、安定した体勢を確保してください。

ぬれた手でACアダプターを抜き差ししない

感電につながります。

●必ず、乾いた手で持ってください。

フラッシュの発光部分を手で触らない

フラッシュの発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因となります。

⚠警告

水をかけたり、ぬらしたりしない

水ぬれ禁止

内部に水が入ると、火災・感電・故障につながります。

●水が入ったときは、販売店にご相談ください。
●雨天、降雪中、海岸、水辺など、水がかかりやすいところで使うときは、ぬらさないようにご注意ください。

AC アダプターやコードを破損させない

禁　止

無理なねじり、引っ張り、加工、重いものの下敷きなどは、コードの破損の原因となり、火災・感電につながります。

●破損したときは、使うのをやめ、販売店にご相談ください。

分解や改造をしない

分解禁止

火災・感電・故障につながります。

●修理や内部の点検は、販売店にご相談ください。
●お手入れ時、または部品の取り外しや取り付けなどが必要な場合は、説明書の指示に従ってください。

交流100 ボルト～240 ボルト以外では使わないまた、配線器具の仕様をこえる使いかたをしない

禁　止

たこ足配線などの場合も、過電流で発熱し、火災・故障につながります。

⚠警告

ACアダプターのプラグのほこりなどは取る

湿気などでショートや絶縁不良となり、火災・感電につながります。

●プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
●プラグは時々点検してください。

ACアダプターは、根元までしっかりと差し込む

接触不良で火災・感電につながります。

●いたんだプラグやゆるんだコンセントは、使わないでください。
●ACアダプターは時々点検してください。

⚠注意

ケーブルを持って抜かない ケーブルを無理に曲げたり、引っ張ったりしない

ケーブルや機器の破損の原因となります。

●必ず、やプラグ部分を持って、まっすぐ抜いてください。

ケーブルが張った状態で使わない

ケーブルにつまずいて、転倒や機器が損傷するおそれがあります。

⚠注意

高温になるところに放置しない

特に真夏の車内、車のトランクの中は、想像以上に高温(約60℃以上)になります。デジタルカメラ、バッテリーなどを絶対に放置しないでください。熱で外装が変形し内部部品が破損すると火災・感電のおそれがあります。

お手入れの際や長期間使わないときは、安全のため、AC アダプターを抜く

誤って内部にふれると、感電するおそれがあります。また、通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、漏電などにより、火災につながるおそれがあります。(カード保護のため、カードも取り出しておいてください)

フラッシュ発光中に近くで発光部を直接見ない

強い光により、目をいためるおそれがあります。

レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光により、内部部品が破損し、火災のおそれがあります。

⚠注意

指定以外の電池を使わない

指定以外の電池を使うと、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

USB 接続ケーブルはUSB 端子以外には装着しない

ケーブルや機器の破損の原因となります。

●必ず、USB 接続ケーブルを装着する前に、使用機器の端子がUSB 用であることを確認してください。

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を及ぼすおそれがあります。

●病院などで使うときも、病院の指示に従ってください。

本機の上に重いものを置いたり、乗ったりしない

重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・感電・故障のおそれがあります。

⚠注意

ACアダプターのコードを持って抜かない

コード破損の原因となり、火災・感電のおそれがあります。

- 必ず、AC アダプター本体を持ってください。

充電中や使用中は、機器の上に布などをかぶせない

熱で外装ケースが変形し内部が発熱すると、火災・感電・故障のおそれがあります。

油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多いところ、振動が激しいところでは使わない

水やほこりが入ったり、振動などで内部部品が損傷すると火災・感電のおそれがあります。

- 3 年に一度ぐらいは、販売店に点検をご相談ください。（特に湿度が高くなる梅雨期の前に点検をすると、効果的です）
- 費用についても、そのときお確かめください。

電池が液もれしたときは

- 万一、液もれが発生し、液が手や衣服に付いたときは、水でよく洗い流してください。
- 液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

付属品

本機をご使用いただく前に、すべての付属品が入っていることをご確認ください。記載の品番は 2001 年 10 月現在のものです。

1　**SD メモリーカード**(32MB)
RP-SD032B

2　**バッテリーパック**

3　AC **アダプター**
DE-877A

4　USB **接続キット**

5　A/V **ケーブル**
K1V204C20001

6　**ストラップ**
VFC3781

7　**レンズキャップ**
VYK0B77
レンズキャップひも
VFC3733

8　**モニターフード**
VYC0878

9　**金属板**
VHD1110

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

使う前に

まずお読みください。
事前に必ずためし撮りをしてください。
大切な撮影（結婚式など）は、必ず事前にためし撮りをし、正常に撮影や録音されていることを確かめてください。

撮影内容の補償はできません。
本機およびカードの不具合で撮影や録音されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

著作権にお気を付けください。
あなたが撮影や録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気を付けください。

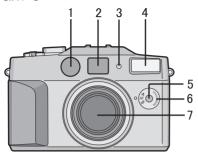
カードの画像について
他機で記録、作成した画像の本機での再生、本機で記録した画像の他機での再生はできない場合がありますので、あらかじめお確かめください。

本書内の写真、イラストについて
本書内の写真は、説明のためスチル写真から合成しています。また本書内の製品姿図・イラスト・メニュー画面などは実物と多少異なりますが、ご了承ください。

参照ページについて
参照いただくページを（P00）で示しています。

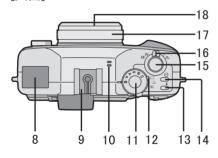
本機で使用できるカードは
SD メモリーカード、マルチメディアカードです。

- 本書ではSD メモリーカードとマルチメディアカードをカードと記載します。
- :SD ロゴは商標です。
- Microsoft Windows は、米国 Microsoft Corporation の商標です。
- Macintosh、MacOS は Apple Computer Inc. の登録商標または商標です。
- LEICA/ ライカはライカマイクロシステム IRGmbH の登録商標です。
- SUMMICRON/ ズミクロンはライカカメラ AG の登録商標です。
- QuickTime および QuickTime ロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。QuickTime は米国および他の国々で登録された商標です。
- その他、本書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。
- 本製品に付属するソフトウェアを、無断で営業目的として複製（コピー）したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。
- 本製品の使用、または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書で説明する製品の外観と仕様は、改良により実際とは異なる場合があります。
- 本書ではバッテリーパックのことを、バッテリーと記載します。

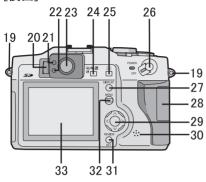
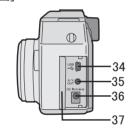
上手に撮る姿勢

左手でレンズ左斜め下を押さえて固定し、右手でしっかり本機をささえます。

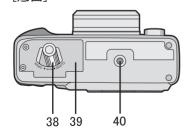
次に、カメラポジションを決めます。カメラを構える向きが被写体のアングルや背景を変化させます。被写体のどこの部分をどれくらいの大きさで撮影するのか、ズームなどを使って調整（フレーミング）します。

各部の名前

［前面］

［天面］

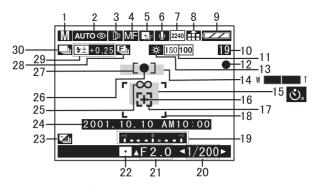
［前面］

1　AF センサー
2　光学ファインダー（P27）
3　フラッシュ調光センサー（P43）
4　フラッシュ発光部
5　セルフタイマーランプ（P44）
6　フォーカスダイヤル　（P65, P67）
7　レンズ

［天面］

8　表示パネル（P20）
9　ホットシュー（P70）
10 マイク（P45, P85）
11 撮影モードダイヤル（P33）
12 操作モードダイヤル（P33）
13 フラッシュ切換ボタン（P42）
14 セルフタイマーボタン（P44）
15 シャッターボタン（P32）
16 ズームレバー（P40, P41）
17 マニュアルフォーカスリング（P67）
18 レンズリング（P68）

[後面]

[左側面]

[底面]

[後面]
19 ストラップ取付け部(P28)
20 視度調整ダイヤル(P27)
21 動作表示ランプ(P31)
22 フラッシュ/ アクセスランプ(P26, P31)
23 光学ファインダー(P27)
24 ボタン(P53, P54, P55, P56)
25 測光方式切換ボタン(P58)
26 電源 スイッチ(P27)
27 DISPLAY ボタン(P31)
28 メモリーカード扉(P25)
29 十字 (▲/▼/◀/▶) キー
30 スピーカー(P74)
31 REVIEW/SET ボタン(P38)
32 MENU ボタン(P34)
33 液晶モニター(P18)

[左側面]
34 USB 端子(5pin)(P98)
35 A/V OUT 端子(P96)
36 DC IN 端子(P23)
37 端子扉 (P23)

[底面]
38 バッテリー扉開閉レバー(P22)
39 バッテリー扉(P22)
40 三脚取付け穴(P30)

[撮影時]

液晶モニターの表示

液晶モニターの画面表示は、デジタルカメラの操作状態を示しています。

[撮影時]

1 撮影モード
- A:オート(P36)
- P:プログラム AE(P48)
- A:絞り優先 AE(P49)
- S:シャッター優先 AE(P50)
- M:マニュアル露出(P51)
- : 動画(P39)

2 フラッシュモード(P42)
- AUTO:オート
- AUTO:赤目軽減オート
- :強制
- :赤目軽減強制
- AUTO SLOW:赤目軽減スローシンクロ(後幕時は AUTO SLOW R)
- :強制 OFF

3 : コンバージョン(P68)

4 なし:オートフォーカス
- :マクロ(P65)
- MF:マニュアルフォーカス(P67)

5 : スポット AF(P63)
(MF 時は非表示)

6 :音声記録オン(P45)

7 記録画素数(P46)
- 2240:2240 x 1680
- 1600:1600 x 1200
- 1120:1120 x 840
- 640:640 x 480

8 クオリティ(圧縮率)(P47)
- :ファイン(低圧縮)
- :スタンダード(標準圧縮)
- TIFF:TIFF(非圧縮)

9 バッテリー残量(P23)
(AC アダプター使用時は非表示)

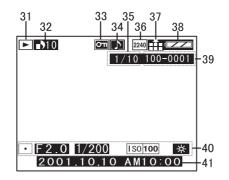
/ / /

10 残り枚数 / 時間
動画時:XXX 秒

11 ISO 感度(P62)
なし:オート
ISO 100 / ISO 200 / ISO 400

12 ●:記録動作表示

13 ホワイトバランス(P60)
なし:オート
- :晴天
- :曇り
- :白熱灯
- :蛍光灯
- WB:フラッシュ
- :セットモード

[再生時]

14 ズーム(P40, P41)
(デジタルズーム設定時:)

15 セルフタイマーモード(P44)
: 2秒
:10 秒

16 :スポット測光表示 (P58)

17 :スポットフォーカスエリア (P63)

18 :フォーカスエリア (P36)

19 マニュアル露出アシスト(P51)

20 シャッタースピード表示(P50)

21 絞り表示(P49)

22 測光方式(P58)
:評価測光
:中央重点測光
:スポット測光

23 オートブラケット(P54)
:オート(AE)ブラケット

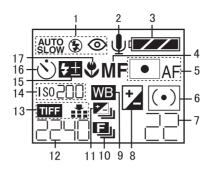
24 現在日時 (P35)
起動時 / 撮影モード設定後 / 時刻設定後約 5 秒間表示します。

25 :無限遠表示(P67)

26 :フォーカス表示(P36, P67)

27 :フォーカスアシスト (MF 時)(P67)

28 :フォーカスブラケット (P55)

29 フラッシュ発光量調整/外部フラッシュ (P56, P70)
:フラッシュ発光量調整時表示
: 外部フラッシュPRESET 設定時
: 外部フラッシュMANUAL 設定時

30 :連写(P66)

[再生時]

31 :再生モード

32 DPOF[ ] プリント枚数(P80)

33 :プロテクト画像(P83)

34 : 音声付き画像(P74)

35 ページ / トータル枚数

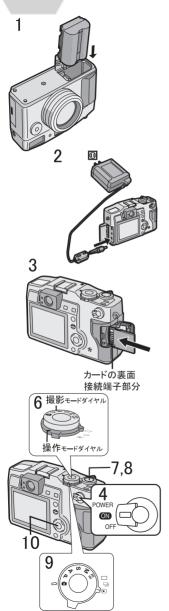
36 撮影記録画素数(P46)
7 参照

37 撮影クオリティ(圧縮率)(P47)
8 参照
:動画時

38 バッテリー残量(P23)
9 参照

39 フォルダー/ ファイル番号

40 撮影情報(P73)
[DISPLAY] ボタンを押すと表示します。

41 撮影日時

表示パネルについて

表示パネルには、デジタルカメラの設定状態や撮影残り枚数、バッテリー残量などが表示されます。(表示内容は液晶モニターに表示されるものと同じです。18、19 ページをご参照ください。)

1　フラッシュモード(P42)

2　音声記録オン(P45)

3　バッテリー残量(P23)
(AC アダプター使用時は非表示)

4　マニュアルフォーカス(P67)
(AF 時は非表示)

5　スポット AF(P63)
(MF 時は非表示)

6　測光方式(P58)

7　残り枚数 / 時間

8　露出補正 (P53)

9　ホワイトバランス(P60)
WB :オート以外のとき
(オート時は非表示)

10 フォーカスブラケット (P55)

11 オートブラケット (P54)

12 記録画素数(P46)
PLAY :再生時表示

13 クオリティ(圧縮率)(P47)

14 ISO 感度 (P62)

15 フラッシュ発光量調整時表示(P56)

16 セルフタイマーモード(P44)
:2秒または 10 秒設定時

17 マクロ (P65)

クイックガイド

機材を準備します。

- 本機
- バッテリー
- メモリーカード
- AC アダプター

電源スイッチが [OFF] になっていることを確認してください。

1 バッテリーを本機に入れる（P22）

2 AC アダプターをカメラに接続して、バッテリーを充電する（P23）

3 メモリーカードを本機に入れる（P25）

4 電源スイッチを [ON] にする（P27）

5 年月日 / 時刻を設定する（P35）

6 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選ぶ（P33）

- 操作モードダイヤルは、撮影系（単写[ ] または連写[ ]）のどちらかを選んでください。

7 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる（P32）

8 シャッターボタンを全押しして撮影する（P32）

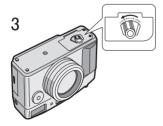
再生します

9 操作モードダイヤルを再生 [▶] にする（P73）

10 ◀/▶を押して見たい画像を表示する

準備

バッテリーを入れる

[準備]

- 電源スイッチを [OFF] にしておいてください。

1 **[OPEN] の方向にレバーを回転させて、バッテリー扉を開ける**

2 **ロックづめがかかるまでバッテリーを奥まで入れる**

3 **バッテリー扉を閉めて、レバーを [CLOSE] の方向に戻す**

バッテリーを取り出す

1 **[OPEN] の方向にレバーを回転させて、バッテリー扉を開ける**

2 **ロックづめを矢印の方向に押して、バッテリーをまっすぐ引き抜く**

3 **バッテリー扉を閉めて、レバーを [CLOSE] の方向に戻す**

お願い/ヒント

- カメラを長期間使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。(バッテリーを再度入れたときは、日付を設定しなおしてください)
- カメラからバッテリーを取り出すときは、電源スイッチを [OFF] にしてから取り出してください。
- 付属のバッテリーは、本機専用です。本機以外で使わないでください。

バッテリーを充電する

バッテリーは充電すると使えるようになります。

1 **電源スイッチを [OFF] にする**

2 **カメラの中にバッテリーを入れる (P22)**

3 **端子扉を開ける**

4 **AC アダプターの接続プラグをカメラの DC IN 端子に差し込む**

5 **AC アダプターを電源コンセントに差し込む**

- 緑色の動作表示ランプが点滅し、充電が始まります。

6 **動作表示ランプの点滅から消灯になると満充電完了**

- 充電が終わったらAC アダプターを電源コンセントから外し、その後DC IN 端子から接続プラグを外してください。

■**バッテリーの状態について**

残量表示が液晶モニターに表示されます。(AC アダプターで電源を供給しているときは表示されません)

: バッテリーの容量は十分です。

: 残量がやや少なくなっています。

: 残量が少なくなっています。

: バッテリーを交換、または充電してください。

■充電時間と撮影可能時間について

（撮影条件）
30秒間隔で1回記録、フラッシュを2回に1回発光
付属のSDメモリーカード（32MB）使用

	充電時間	連続撮影時間（枚数）
付属のバッテリー	約120分	液晶モニターONのとき 約120分（240枚相当）
		液晶モニターOFFのとき 約180分（360枚相当）

■充電する環境 / 充電エラーについて

- 充電は周囲の温度が10 ～35 ℃(バッテリーの温度も同様)のところで行ってください。
- 充電が始まると、動作表示ランプが約 2 秒周期(1 秒点灯、1 秒消灯)で点滅します。
  充電開始後、動作表示ランプの点滅周期が約 2 秒よりも早くなった場合は充電エラーです。
  その場合、AC アダプターを電源コンセントから抜いて、バッテリーを取り出し、周囲の温度やバッテリーが低温または高温になっていないかを確認し、再度充電しなおしてください。(電源スイッチを切 / 入するだけではエラーを解除できません)再度充電してもまだ点滅周期が早くなる場合は、販売店にご相談ください。

電源コンセントにつないで使う

AC アダプターを使って電源コンセントにつなぐと、バッテリーの消耗を気にせずに使えます。接続方法は「バッテリーを充電する」と同じです。(P23)

- 使用中、本機が温かくなりますが、故障ではありません。
- AC アダプターは海外でも使うことができます。ただし、変換アダプターが必要です。(P105)

カードを入れる

カードの裏面接続端子部分

カードを取り出す

[準備]

• 電源スイッチを [OFF] にしておいてください。

1　メモリーカード扉を開く

2　カードをカチッとなるまで奥までしっかり入れる

• カードの向きを確認してください。

3　メモリーカード扉を閉じる

カードを取り出す

1　メモリーカード扉を開く

2　カードを押す

3　カードをまっすぐ引き抜く

4　メモリーカード扉を閉じる

お願い/ヒント

• カードを取り出すときは、電源スイッチを[OFF] にしてから取り出してください。
• カードの裏の接続端子部分に触れないでください。
• メモリーカード扉が完全に閉じない場合は、一度カードを取り出してから、もう一度入れなおしてください。
• カードが入らないときは、カードの向きが正しいか確認してください。
• カードは当社製のものをお使いいただくことをおすすめします。(正規カード以外は使用しないでください)

■ カードにアクセス中は･･･

カードにアクセス(認識 / 記録 / 読み出し / 消去など)中は、赤色のフラッシュ/ アクセスランプが点灯します。

フラッシュ/ アクセスランプが点灯しているときは、バッテリーを抜かないでください。また、メモリーカード扉を開けてカードを抜いたりしないでください。カードやカードの内容が破壊されたり、本体が正常に動作しなくなることがあります。

電気ノイズ、静電気、本機やカードの故障などによりカードのデータが壊れたり消失することがありますので、大切なデータは USB 端子などを使って、パソコン(P98)などにも保存してください。

■ SD メモリーカード(付属)とマルチメディアカード(別売)について

SD メモリーカードとマルチメディアカードは小型、軽量で、着脱可能な外部メモリーカードです。SD メモリーカードはカードへの書き込みやフォーマットを禁止する書き込み禁止スイッチを備えています。(スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みやデータの消去、フォーマットはできなくなり、戻すと可能になります)

SD メモリーカード
- RP-SD064B(64MB)
- RP-SD032B(32MB)
- RP-SD016B(16MB)
- RP-SD008B(8MB)

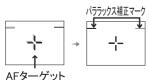
スイッチ

マルチメディアカード
- VW-MMC16(16MB)
- VW-MMC8(8MB)

記載の品番は 2001 年 10 月現在のものです。

- マルチメディアカードを使う場合、動画記録後、グレーの画面が出る場合がありますが、異常ではありません。

電源を入/切する(ON/OFF)

動作表示ランプ
POWER
ON
OFF
REVIEW/SETボタン

1　電源スイッチを [ON] にする

• 動作表示ランプが点灯します。

2　電源スイッチを [OFF] にする

準備

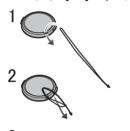
お願い/ヒント

• 電源を入/切するときは、レンズの前に障害物がないところで行ってください。
• 操作モードダイヤルが撮影系のとき、レンズキャップを付けたまま電源を [ON] にすると、「レンズキャップを外して SET を押して下さい」というメッセージが表示されます。レンズキャップを外した後、[REVIEW/SET] ボタンを押してください。

光学ファインダーを見やすくする(視度調整)

使う前に、視力に合わせてファインダー内のAFターゲットがよく見えるようにします。

1　視度調整ダイヤルを回して調節する

お願い/ヒント

• ズームT側で被写体距離が70 cm～1 mのとき、上側をパララックス補正マークに合わせると、被写体の上部が切れたりしません。正確なフレーミングが必要なときは、液晶モニターをご使用ください。

ストラップを付ける

1　ストラップ先端の三角形の金具を付属の金属板で開き、本機のストラップ取付け部につける

2　もう一方も同じように付ける

レンズキャップを付ける

撮影をしないときは、付属のレンズキャップを付けて、レンズ面を保護してください。

1　レンズキャップひもの先端をレンズキャップに通す

2　ひもの反対側をひもの輪の部分に通す

3　矢印の方向に引っぱる

4　**ストラップを付ける場合**
レンズキャップひもの先端をストラップ先端の三角形の金具に通し、左図のように取り付ける

ストラップを付けない場合
レンズキャップひもの先端をストラップ取付け部に通し、左図のように取り付ける

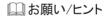
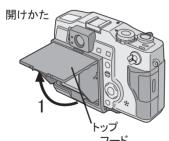
お願い/ヒント

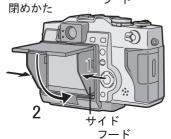
- 本機の電源を入れる前に、レンズキャップを外してください。

モニターフードを付ける

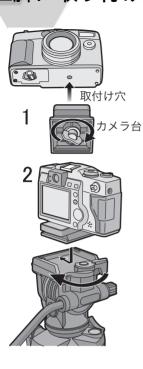
屋外で太陽光が強いときなど、液晶モニターが見えにくい場合があります。そのとき、付属のモニターフードを付けると見やすくなります。

1 光学ファインダーの底面とモニターフード上部のくぼみを合わせ、矢印の方向へスライドさせる

2 モニターフードのねじを付属の金属板で回し、本機に固定させる

開けかた

1 矢印の方向へトップフードを開く

- 左図のようにサイドフードも開きます。

閉じかた

1 両側のサイドフードを矢印の方向へ押さえる

2 矢印の方向へトップフードを閉じる

お願い/ヒント

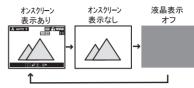
- バッテリーを交換するときは、モニターフードを取り外してください。
- モニターフードを装着して三脚を取り付けることができます。

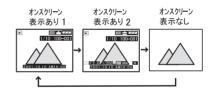
三脚に取り付ける

別売の三脚(VZ-CT55) を使うと、シャッタースピードが遅いときや、望遠で撮影するときでも安定した撮影ができます。

1　本機の三脚取付け穴に合わせて、カメラ台を付ける

2　カメラ台を三脚に取り付ける

お願い/ヒント

- 三脚の説明書もよくお読みください。
- モニターフードをつけても、三脚を使うことができます。

液晶モニターの表示を入 / 切する

液晶モニターの表示は、[DISPLAY] ボタンを押すごとに以下のようになります。

[撮影時]

- 撮影時のみ、電源を [OFF] にしても、設定は保持されています。
- デジタルズームを [ON] に設定しているときは液晶モニターの表示は [OFF] になりません。
- 液晶モニターの表示が [OFF] でも、オートレビューを [ON] に設定しているときはオートレビューされます。(オートレビュー終了後、[OFF] に戻ります)
- 液晶モニターの表示が [OFF] でも、撮影後、[REVIEW/SET] ボタンを押すとレビューされます。(レビュー終了後、[OFF] に戻ります)

[再生時]

ランプについて

動作表示ランプ

■ **動作表示ランプ(緑)**

点滅

- 警告表示

点灯

- 電源スイッチを [ON] にしたとき

■ **フラッシュ/ アクセスランプ(赤)**

点滅

- フラッシュの充電をしているとき
- フラッシュを [強制 OFF] に設定して暗い場所で撮影するとき

点灯

- カードにアクセスしているとき
- フラッシュ発光時(シャッター半押しで点灯)

シャッターボタンについて（半押し / 全押し）

シャッターボタンは「半押し」と「全押し」の２段階になっています。

1　半押し（浅く押す）

• ピントと露出が固定されます。

2　全押し（下まで押し切る）

• 画像が本機に取り込まれます。動画の場合は、撮影が始まります。

お願い/ヒント

• シャッター音、操作音の音量調整はメニューで設定できます。(P93)
• 一度に全押しすると、手ぶれをしたり、ピントが合わなかったりします。

操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルについて

■**操作モードダイヤル**
このダイヤルで、「撮影」(単写または連写)と「再生」を切り換えます。

[撮影時]

□ : **単写**
静止画撮影時、1回シャッターボタンを押すごとに1枚の画像が撮れます。動画を撮るときも単写[□]に合わせてください。

⧉ : **連写**(P66)
静止画撮影時、シャッターボタンを押し続けると、連続して画像が撮れます。

[再生時]

▶ : **再生**(P73)
撮った画像を再生します。

■**撮影モードダイヤル**
撮影時に以下の6つのモードから選択します。

Ⓐ : **オート**(P36)
シャッタースピードや絞り値が自動的に決まり、撮影します。

P : **プログラム** AE(P48)
シャッタースピードや絞り値が自動的に決まり、撮影します。また同時に使える機能もあります。

A : **絞り優先** AE(P49)
設定した絞り値からシャッタースピードが自動的に決まり、撮影します。

S : **シャッター優先** AE(P50)
設定したシャッタースピードから絞り値が自動的に決まり、撮影します。

M : **マニュアル露出**(P51)
自動でシャッタースピードと絞りが合いにくいとき、手動で調整し、撮影します。

🎞 : **動画**(P39)
動画を撮影します。

メニュー画面を操作する

メニューの一例

↓ ▼ を4回押すと

↓ ▶ を押すと

メニュー画面で、撮影や再生時の設定をします。また年月日、時刻、操作音、シャッター音などの各種設定も行います。液晶モニターを見ながら操作してください。

1 [MENU] ボタンを押す

- 操作モードダイヤルが単写 [□] または連写 [□] のときは撮影系のメニューが、再生 [▶] のときは再生系のメニューが表示されます。

2 ▲/▼ で項目を選び、◀/▶ で設定する

- 手順２で最初に ▶ を押すと、「セットアップ」メニューになります。（◀ を押すと戻ります）

3 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

年月日 / 時刻を合わせる

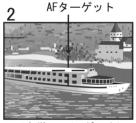
3

4

時計設定

2001. 11. 3. PM 3 : 15

選択：　設定：　戻る： MENU

年は 2001 年から 2099 年まで設定できます。時刻は 12 時間表示です。

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▶ を押してセットアップメニューにする**

3 **▲/▼ で [時計設定] を選び、▶ を押す**

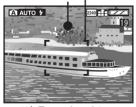
4 **▲/▼/◀/▶ で年月日と時刻を合わせる**

5 **[MENU] ボタンを２回押す**

- メニュー画面が消えます。

6 **一度電源を [OFF] にしてから再度 [ON] にして、設定通り表示されているか確認する**

お願い/ヒント

- バッテリーが入っていなかったり、AC アダプターを接続していなくても、本機は内蔵のバックアップ用の電源で約５時間は時計設定を記憶しています。しかしそれ以上時間がたつと設定が消えてしまいますので、もう一度年月日/時刻を合わせなおしてください。

撮影してみましょう(オート撮影)

シャッターボタンを押すだけで、露出(シャッタースピードと絞り値)が自動的に決まり、撮影します。

(光学ファインダー内)

(液晶モニター内)

[準備]

- カードを入れる(P25)
- 電源スイッチを[ON]にする(P27)
- 操作モードダイヤルを単写[ ]にする(P33)

1 撮影モードダイヤルをオート[A]にする

2

光学ファインダーから被写体を見る場合

被写体を光学ファインダー内のAFターゲットに合わせ、シャッターボタンを半押しする

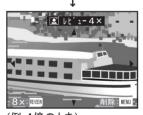
液晶モニターから被写体を見る場合

被写体が液晶モニターのフォーカスエリアに入るように合わせ、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、液晶モニターにフォーカス表示[●]が出ます。
- シャッタースピードと絞り値が自動的に決まり、液晶モニターに表示されます。
- 被写体がAFターゲットやフォーカスエリアから外れる場合はAF/AEロック撮影(P57)を行ってください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

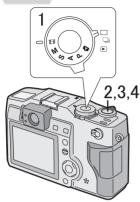
- オートレビュー(P92)を[ON]にしていると、撮影直後約2秒間撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

お願い/ヒント

- オート撮影で、いろいろな設定を変更することができます。52 ページを参照してください。
- パワーセーブの時間が設定されているときは、設定時間中にカメラの操作をしないと自動的に電源が切れます。再びカメラの操作をするときは、電源スイッチを[OFF]にしてから再度[ON]にするか、シャッターボタンを押してください。(P94)
- 液晶モニターの明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。特に暗い場所で長時間露光で撮影するときなどは、液晶モニター上は暗く映りますが、実際は明るく撮れます。
- 暗い場所で撮影すると、露出時間が長くなり手ぶれを起こしやすくなるので、三脚の使用をおすすめします。
- 適正絞り値でないときは、F 値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。

撮影した画像を確認する（レビュー）

1

（例：4倍のとき）

3

オートレビュー（P92）を［ON］にしていると、撮影直後約２秒間撮影した画像が液晶モニターに表示されますが以下の方法で確認することもできます。

1　撮影後、［REVIEW/SET］ボタンを押す

- 最後に撮影した画像が約３秒間表示されます。［REVIEW/SET］ボタンをもう一度押すと４倍に、さらにもう一度押すと８倍にズームして表示されます。

■撮影した画像をレビュー中に削除する

2　［MENU］ボタンを押す

3　「この画像を削除しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼で［はい］を選ぶ

4　［REVIEW/SET］ボタンを押す

- 画像が削除されます。
- 一度削除された画像は復帰しません。

お願い/ヒント

- 連写［ ］のときは、最初の１画像のみレビューで見ることができます。
- 動画［ ］のときは、レビューが使えません。
- 一度電源を［OFF］にしたり、撮影モードダイヤルや操作モードダイヤルを変えると、レビュー画面を表示させることはできません。

動画を撮影してみましょう

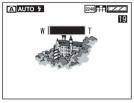
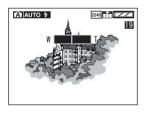
動画時に使える機能

マクロ	P65
マニュアルフォーカス	P67
コンバージョン	P68

動画時に固定される機能

内蔵フラッシュ	強制オフ固定	P42
測光モード切り換え	評価測光固定	P58
ホワイトバランス	AUTO固定	P60
ISO感度	AUTO固定	P62

本機で動画を撮影することができます。(付属のSDメモリーカード32MBの場合、約160秒記録することができます)

[準備]

- カードを入れる(P25)
- **電源スイッチを**[ON]**にする**(P27)
- 操作モードダイヤルを単写[ ]にする(P33)

1 撮影モードダイヤルを動画 [ ]にする

2 被写体が液晶モニターの中央に入るように合わせ、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、フォーカス表示[●]が画面に出ます。

3 シャッターボタンを全押しして撮影を開始する

- 音声も同時に記録が始まります。

4 再度シャッターボタンを全押しして撮影終了する

- 記録途中でカードのメモリーがいっぱいになると自動的に撮影が終了します。

お願い/ヒント

- 液晶モニターに表示される残り時間は、めやすにしてください。
- 音声なしで動画を記録することはできません。
- 動画撮影のとき、左表のような設定になります。
- マルチメディアカードを使う場合、動画記録後、グレーの画面が出る場合がありますが、異常ではありません。
- オートフォーカス、ズームは、撮影を開始したとき(最初のフレーム)の設定値に固定されます。
- 付属のカード以外(マルチメディアカードなど)で動画撮影すると、途中で撮影が終了する場合があります。

大きく(望遠)または広く(広角)撮る

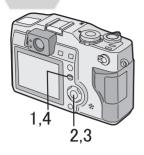
ズーム3倍までの範囲で、人や物を大きく撮ったり景色などを広角に撮ることができます。

[準備]

• 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1　被写体にカメラを向けて、ズームレバーで大きさを調整する

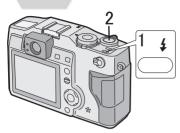
大きく撮るには（望遠）:
T 側へ動かす
広く撮るには（広角）:
W 側へ動かす

2　撮影する

• 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

お願い/ヒント

• 30 cm 以上離れるとピントが合います。マクロ時は 65 ページを参照してください。

さらに拡大して撮る(デジタルズーム)

2,3

光学3倍、デジタル2倍の最大6倍まで拡大が可能になります。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼ で [デジタルズーム] を選ぶ**

3 **◀/▶ で [ON] を選ぶ**

4 **[MENU] ボタンを押す**

- メニュー画面が消えます。

- ズームの調整や撮影手順は、「大きく(望遠)または広く(広角)撮る(P40)」と同じです。

お願い/ヒント

- 動画 [ ] のときは、デジタルズームが使えません。
- 液晶モニターが表示されているときのみ、デジタルズームが効きます。
- デジタルズームは拡大するほど画質が劣化します。

撮る・基本

内蔵フラッシュを使って撮る

	(A)	P	A	S	M	(動画)
AUTO ⚡	○	○	○	○	○	×
AUTO ◉	○	○	○	○	○	×
⚡	○	○	○	○	○	×
⚡ ◉	×	○	○	○	○	×
AUTO SLOW ◉	×	○	○	×	×	×
⊛	○	○	○	○	○	○

○ : 設定可
× : 設定不可

暗い場所でも、内蔵フラッシュを使うと撮影することができます。

[準備]
- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 [⚡] を押す

- 押すごとに、以下のように切り換わります。(撮影モードによって設定できない機能があります。設定できない機能は[⚡] ボタンを押しても表示されません。左表を参照してください)

AUTO ⚡ :オート
撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。

AUTO ◉ :赤目軽減オート
撮影状況に応じて自動的にフラッシュが発光し、同時に人の瞳が赤く写る(赤目現象)をおさえます。
暗い場所で人物を撮るときなどに使います。

⚡ :強制
フラッシュを強制的に発光させます。
逆光になる場合などの撮影に使います

⚡ ◉ :赤目軽減強制
フラッシュを強制的に発光させ、同時に人の瞳が赤く写る(赤目現象)のをおさえます。

AUTO SLOW ◎ / AUTO SLOW R ◎ (後幕時):
赤目軽減スローシンクロ

夜景を背景に人物を撮影するときなど、フラッシュ発光とともにシャッタースピードも長くして背景の夜景も明るく写します。同時に人の瞳が赤く写る(赤目現象)のをおさえます。

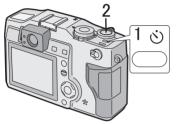
- 先幕、後幕の設定をすることができます。(P64)

⊛:強制 OFF

暗いところでもフラッシュが発光しません。
フラッシュ禁止の場所での撮影などに使います。

2 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

お願い/ヒント

- フラッシュが可能な範囲は、W 端時で約 30 cm ～ 4.5 m、T 端時で約 30 cm ～ 3.5 m です。(マクロのときは W 端時で約 10 cm ～ 50 cm、T 端時で約 20 cm ～ 50 cm です)
- フラッシュ調光センサーを指などでふさがないでください。明るさを感知できません。
- 動画 [ ] のときは、強制 OFF[ ] に固定されます。
- 連写 [ ] およびオートブラケット、フォーカスブラケット設定時でフラッシュが発光する際は、1 枚しか撮影できません。
- 発光量調整(P56)で明るさを調整することができます。

撮る・基本

セルフタイマーで撮る

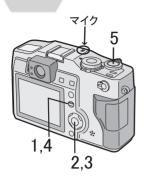
セルフタイマーを設定すると、10 秒(または２秒)後に自動的に撮影されます。

[準備]
- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 [⏲] ボタンを押す

- 押すごとに以下のように変わります。

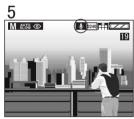
⏲10(10秒) → ⏲2(2秒) → 非表示

⏲10 :セルフタイマー設定 10 秒

⏲2 :セルフタイマー設定２秒

非表示:セルフタイマー解除

2 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーランプが点滅し、10 秒(または２秒)後に撮影されます。
- セルフタイマー設定時は、シャッターボタンを半押ししてもピントと露出は固定されませんが、全押ししたあと撮影直前に自動的に固定されます。
- 撮影前に[MENU]ボタンを押すとセルフタイマー設定が解除されます。

お願い/ヒント

- オート [A] のときは、10 秒 [⏲10] しか選べません。
- 動画 [🎞] のときは、セルフタイマーが使えません。
- 連写 [⧉] のときは、最初の１画像のみセルフタイマー撮影されます。

音声付き静止画を撮る

2,3

5

１回、５秒間の音声が入った画像を撮ることができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 [MENU] **ボタンを押す**

2 ▲/▼ **で [音声記録] を選ぶ**

3 ◀/▶ **で [ON] を選ぶ**

- 液晶モニターに [ ] が表示されます。

4 [MENU] **ボタンを押す**

- メニュー画面が消えます。

5 シャッターボタンを全押しして画像撮影する

- シャッターを押し続ける必要はありません。
- 音声は本機の内蔵マイクより録音されます。
- ５秒間録音後、自動的に終了します。

お願い/ヒント

- クオリティを TIFF[TIFF] に、またはオートブラケット、フォーカスブラケット、連写を設定していると、音声付き静止画を撮ることができません。(P47, P54, P55, P66)

撮る・基本

撮る・応用

記録画素数を変える

2,3

４種類の記録画素数の中から、目的に合わせて選ぶことができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼ で [記録画素数] を選ぶ**

3 **◀/▶ で記録画素数を選ぶ**

- [2240]：2240 x 1680 画素
- [1600]：1600 x 1200 画素
- [1120]：1120 x 840 画素
- [640]：640 x 480 画素

4 **[MENU] ボタンを押す**

- メニュー画面が消えます

お願い/ヒント

- 動画 [▦] のときは、320 x 240 画素に固定されます。
- 少ない記録画素数を選ぶと、1 枚のメモリーカードにより多く記録できます。また、データ容量が小さいので、電子メールの添付画像やホームページ用画像などに使用するときに有効です。
- 多い記録画素数を選ぶと、鮮明にプリントすることができます。

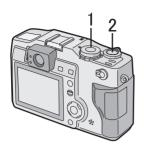
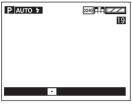
クオリティ(圧縮率)を変える

2,3

クオリティと記録枚数
（同梱のSDメモリーカード32MBの場合）

記録画素数	クオリティ ファイン	スタンダード	TIFF
2240 x 1680	約 15枚	約 31枚	2枚
1600 x 1200	約 31枚	約 61枚	4枚
1120 x 840	約 61枚	約118枚	10枚
640 x 480	約145枚	約236枚	29枚
動画	約160秒		

３種類のクオリティ(圧縮率)の中から、目的に合わせて選ぶことができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1　[MENU] ボタンを押す

2　▲/▼ で [クオリティ] を選ぶ

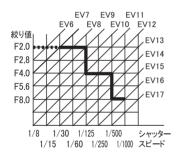
3　◀/▶ でクオリティ（圧縮率）を選ぶ

- ファイン : ファイン(低圧縮)
  画質を優先し、高画質に記録します。
- スタンダード : スタンダード(標準圧縮)
  撮影枚数を優先し、画質は標準で記録します。
- TIFF : TIFF(非圧縮)
  レタッチソフトなどで画像を編集･加工するときに最適です。

4　[MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

撮る･応用

お願い/ヒント

- 撮影モードがオート [A] のときは、TIFF[TIFF] を選ぶことができません。
- 動画 [動画] のときは、クオリティを変更できません。
- シーンによってモザイク状になることがあります。
- 記録枚数は付属の 32MB の SD メモリーカード使用時のものです。めやすにしてください。(ファイン、スタンダード混在時は、記録枚数は変動します)
- モニターに表示される残り枚数は撮影された枚数分、減少しない場合があります。

露出をカメラにまかせて撮る（プログラムAE）

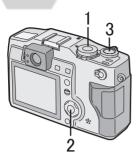
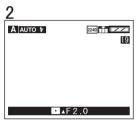
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ線図（ISO100設定時）

被写体の明るさからシャッタースピードと絞り値が自動設定されます。シャッタースピードと絞り値の組み合わせはオート撮影(P36) と同じですが、下記の細かな設定をすることができます。(オート撮影モードでは設定できません)

- 内蔵フラッシュの赤目軽減強制 [ ]、赤目軽減スローシンクロ [AUTO SLOW](P42)
- セルフタイマーの２秒 [ ](P44)
- クオリティ(圧縮率)の TIFF[TIFF](P47)
- 露出補正(P53)
- オートブラケット(P54)
- フォーカスブラケット(P55)
- フラッシュ発光量調整(P56)
- 測光方式切換(P58)
- 画質調整(P59)
- ホワイトバランス(P60)
- ISO 感度選択(P62)
- スポット AF(P63)
- 外部フラッシュの [MANUAL](P70)

[準備]

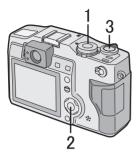
- 操作モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1　撮影モードダイヤルをプログラムAE[P] にする

2　撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

お願い/ヒント

- 暗い場所で撮影すると、露出時間が長くなり手ぶれを起こしやすくなるので、三脚の使用をおすすめします。
- 適正絞り値でないときは、F 値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。

絞りを決めて撮る(絞り優先AE)

絞り値を設定すると、被写体の明るさから自動的にシャッタースピードを設定します。絞り値を変えると背景の描写に変化がつくので、背景を生かした撮影や背景をぼかした撮影などができます。

1 撮影モードダイヤルを絞り優先AE[A]にする

2 ▲/▼で絞り値を選ぶ

3 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

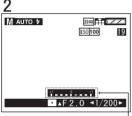
撮る・応用

お願い/ヒント

- 絞り値の設定可能範囲はF2.0 ～ F8.0です。
- ズーム位置によって絞り値は変化する場合があります。
- ISO感度の[AUTO]は選べません。
- 適正絞り値でないときは、F 値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。

シャッタースピードを決めて撮る（シャッター優先AE）

2

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさから自動的に絞り値を設定します。たとえば動いているものを撮影するときなどは高速スピードに設定してください。

1　撮影モードダイヤルをシャッター優先［S］にする

2　◄/►でシャッタースピードを選ぶ

3　撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P36）」と同じです。

お願い/ヒント

- 撮影モードダイヤルがシャッター優先AE［S］のとき、以下の設定はできません。
  内蔵フラッシュの赤目スローシンクロ［AUTO SLOW ◎］（P42）
  ISO 感度の［AUTO］設定（P62）
- シャッタースピードの設定可能範囲は 8 ～ 1/1000 です。
- シャッタースピードが遅いときは、三脚を使うことをおすすめします。（P30）
- 適正絞り値でないときは、F　値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。
- 1/500 より速いシャッタースピードのとき、絞り値は限定されます。

手動で露出を合わせて撮る（マニュアル露出）

マニュアル露出アシスト

特に同じ背景で白いもの、黒いものを撮影する場合など、背景の露出が固定されるので便利です。

1 撮影モードダイヤルをマニュアル露出 [M] にする

- 露出の状態のめやすを示すマニュアル露出アシストが液晶モニターに表示されます。

2 マニュアル露出アシストの表示に従って、◀/▶ でシャッタースピードを選び、▲/▼ で絞り値を選ぶ

3 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P36）」と同じです。

撮る・応用

お願い/ヒント

- 撮影モードダイヤルがマニュアル露出 [M] のとき、以下の設定はできません。
  内蔵フラッシュの赤目スローシンクロ [AUTO SLOW ◎]（P42）
  露出補正（P53）
  ISO 感度の [AUTO] 設定（P62）
- 絞り値の設定可能範囲は F2.0 から F8.0 までです。
- シャッタースピードの設定可能範囲は 8 ～ 1/1000 です。
- 1/500 より速いシャッタースピードのとき、絞り値は限定されます。

撮影モード別設定可能機能一覧

		AUTO	P	A	S	M	参照ページ
デジタルズーム		○	○	○	○	○	P41
フラッシュモード	AUTO ⚡	○	○	○	○	○	P42
	AUTO 👁	○	○	○	○	○	
	⚡	○	○	○	○	○	
	⚡ 👁	×	○	○	○	○	
	AUTO SLOW 👁	×	○	○	×	×	
	(発光禁止)	○	○	○	○	○	
セルフタイマー		○(10秒のみ)	○	○	○	○	P44
音声付き静止画		○	○	○	○	○	P45
記録画素数		○	○	○	○	○	P46
クオリティ(圧縮率)		○(TIFF以外)	○	○	○	○	P47
露出補正		×	○	○	○	×	P53
オートブラケット		×	○	○	○	○	P54
フォーカスブラケット		×	○	○	○	○	P55
フラッシュ発光量調整		×	○	○	○	○	P56
測光モード		評価測光固定	○	○	○	○	P58
画質調整		×	○	○	○	○	P59
ホワイトバランス		AUTO固定	○	○	○	○	P60
ISO感度	AUTO	○	○	×	×	×	P62
	100/200/400	×	○	○	○	○	
スポットAF		×	○	○	○	○	P63
先幕・後幕(スローシンクロ)		×	○	○	×	×	P64
マクロ		○	○	○	○	○	P65
マニュアルフォーカス		○	○	○	○	○	P67
コンバージョン		○	○	○	○	○	P68
外部フラッシュ	PRESET	○	○	○	○	○	P70
	MANUAL	×	○	○	○	○	

○:設定可能
×:設定不可能

露出を補正して撮る

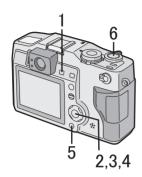
被写体と背景の明るさにきわめて大きく差がある場合など、適正な露出が得られないときに補正します。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 [ ] ボタンを押して [露出補正] を選ぶ

2 ◀/▶ で露出を調整する

- －2 EV から＋2 EV の範囲で 0.25EV ステップで補正できます。
  (EV とは Exposure Value の略で、露出量という意味であり、絞りとシャッタースピードによって CCD に与える光量のことです。
  EV0 ＝絞り値 F1.0 でシャッタースピード 1 秒の露光量
  絞り値またはシャッタースピードが上がると、EV1、EV2、EV3･･･と増します。)
- 補正状態は液晶モニターには反映されません。

3 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- 調整画面が消えます。

4 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）(P36)」と同じです。

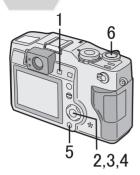
撮る・応用

お願い/ヒント

- 撮影モードダイヤルがオート [A]、マニュアル露出 [M] または動画 [ ] のときは、露出を補正することができません。
- シャッタースピードと絞りの値によっては、露出補正できない範囲があります。(詳しくは P72 をご覧ください)

オートブラケットで撮る (AE ブラケット撮影)

2

4

１回シャッターを押すと、設定された露出補正量の幅に従って、カメラが露出を変えながら自動的に３画像(または５画像)撮影します。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 [ ] ボタンを押して [オートブラケット] を選ぶ

2 ◀/▶ で露出の補正量を決める

- OFF（オートブラケットされません）
- 0.25EV
- 0.5EV
- 0.75EV
- 1.0EV

3 ▼ を押す

- ▲/▼ で手順２と４を切り換えることができます。

4 ◀/▶ で撮影枚数を選ぶ

- ３枚
- ５枚

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

6 撮影する

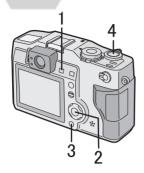
- 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)（P36)」と同じです。

お願い/ヒント

- オート [A] のときは、オートブラケットで撮影できません。
- クオリティをTIFF[TIFF] に設定していると、オートブラケットで撮影できません。
- クオリティをファイン[ ] に設定していると、撮影枚数が３枚に固定されます。
- フラッシュが光る場合は１枚しか撮れません。

フォーカスブラケットで撮る

2

4

１回シャッターを押すと、レンズの焦点深度に従って、カメラのフォーカスを変えながら自動的に３画像(または５画像)撮影します。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 [ ] ボタンを押して [フォーカスブラケット] を選ぶ

2 ▶ で ON を選ぶ

- OFF を選ぶとフォーカスブラケットで撮影されません。

3 ▼ を押す

- ▲/▼ で手順２と４を切り換えることができます。

4 ◀/▶ で撮影枚数(３枚 / ５枚)を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

6 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

撮る・応用

お願い/ヒント

- オート [A] のときは、フォーカスブラケットで撮影できません。
- クオリティを TIFF[TIFF] に設定していると、フォーカスブラケットで撮影できません。
- クオリティをファイン[ ] に設定していると、撮影枚数が３枚に固定されます。
- フラッシュが光る場合は１枚しか撮れません。

フラッシュの発光量を調整して撮る

2

フラッシュの発光量を調整することができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 [ ] ボタンを押して [フラッシュ発光量調整] を選ぶ

2 ◀/▶でフラッシュの発光量を決める

- −2 EV から+2 EV の範囲で 0.25EV ステップで調整できます。

3 [REVIEW/SET] ボタンを押す

4 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

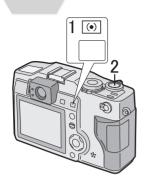
お願い/ヒント

- オート [A] や動画 [ ] のときは、フラッシュの発光量を調整することができません。

AF/AE ロックして撮る

(例)このような構図を撮りたい場合

2

被写体がAF ターゲットから外れている場合、そのままシャッターボタンを押すだけでは被写体にピントが合いません。ピントと露出を固定(AF/AE ロック)してからシャッターボタンを押すと、ピントの合ったきれいな画像が撮れます。
AF: オートフォーカス
AE:オートエクスポージャー(自動露出)

[準備]
- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 ピントを合わせたい被写体が液晶モニターのフォーカスエリアに入るように合わせ、シャッターボタンを半押し(AF/AE ロック) したまま保持しておく

- ピントが合うと、フォーカス表示[●]が出ます。

2 カメラを動かし、撮りたい構図で保持していたシャッターボタンを押し切る

お願い/ヒント

- AF/AE　ロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

測光モードを切り換えて撮る

通常、評価測光 [(•)] に設定されていますが、中央重点測光[( )]やスポット測光[•]に切り換えて撮影することができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 測光モードボタンを押す

- 押すごとに以下のように変わります。

(•)(評価測光)→( )(中央重点測光)→•(スポット測光)

(•):評価測光
画面全体の輝度差などを総合的に評価して、露出が最適になるように測光します。

( ):中央重点測光
液晶モニター中央部の被写体に重点をおきながら測光します。

•:スポット測光
液晶モニターに表示されている「スポット測光表示」のポイントを測光します。

2 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

お願い/ヒント

- スポット測光 [•] のときは、液晶モニターを使って撮影することをおすすめします。
- オート [A] や動画 [▦] のときは、評価測光固定になります。

画質を調整する（コントラスト / シャープネス / 彩度）

2

3

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

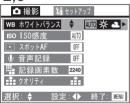
1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[画質調整]を選んで▶を押す

3 ▲/▼/◀/▶ で [コントラスト][シャープネス][彩度] をそれぞれ設定する

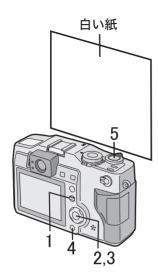
4 [MENU] ボタンを２回押す

- メニュー画面が消えます。

撮る・応用

お願い/ヒント

- オート [A] や動画 [ ] のときは、画質を調整できません。

自然な色合いに調整して撮る（ホワイトバランス）

2,3

オートホワイトバランスにより、自動で自然な色合いに撮ることができますが、場面の状態や光源によっては、自動で自然な色合いに撮れないことがあります。このような場合に手動でホワイトバランスを設定します。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[ホワイトバランス]を選ぶ

3 ◀/▶ で必要なモードを選ぶ

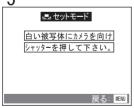
- AUTO：自動で設定するとき
- (晴天)：屋外晴天下で撮影するとき
- (曇り)：曇天や日陰で撮影するとき
- (白熱灯)：白熱灯下で撮影するとき
- (蛍光灯)：蛍光灯下で撮影するとき
- (フラッシュ)：フラッシュの光のみで撮影するとき
- (セットモード)：手動で設定するとき(詳しい設定方法については次のページをご覧ください)

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

5 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

お願い/ヒント

- オート [A] のときは、[AUTO] に固定されます。

2,3

5

ここでは、手動でホワイトバランスを設定するセットモードについて説明します。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼ で[ホワイトバランス]を選ぶ**

3 **◀/▶ でセットモード[ ]を選ぶ**

新しくホワイトバランスを設定したいときのみ

4 **[REVIEW/SET] ボタンを押す**

- メニュー画面が消えます。

5 **白い紙などにカメラを向けて、画面全体が白くなるようにし、シャッターボタンを全押しする**

- ホワイトバランスが設定されます。

ISO 感度を設定して撮る

2,3

ISO 感度とは、光に対する敏感さを数値で表したもので、数値が高くなるほど、暗い場所での撮影に適しています。

[準備]
- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [ISO 感度] を選ぶ

3 ◀/▶ で感度を選ぶ

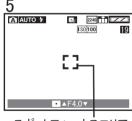
- AUTO
- 100
- 200
- 400

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

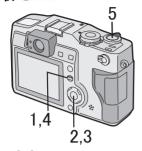
5 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）（P36）」と同じです。

お願い/ヒント

- 撮影モードダイヤルが絞り優先 AE[A]、シャッター優先 AE[S] またはマニュアル露出 [M] のとき、ISO 感度の [AUTO] を選ぶことはできません。
- オート [A] や動画 [ ] のときは、[AUTO] になります。

スポット AF で撮る

スポットフォーカスエリア

フォーカスエリアを狭くして、被写体の一部に特にピントを合わせて撮影することができます。人物の顔のアップを撮影する際に、目にピントを合わせたい場合などに便利です。

[準備]
- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [スポット AF] を選ぶ

3 ◀/▶ で [ON] を選ぶ

4 [MENU] ボタンを押す
- メニュー画面が消えます。

5 被写体をスポットフォーカスエリアに合わせる

6 撮影する
- 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

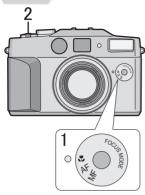
お願い/ヒント

- オート [A] や動画 [ ] のときは、スポット AF で撮ることができません。

スローシンクロの先幕、後幕を設定して撮る

2,3

先幕のとき

後幕のとき

通常のフラッシュ撮影は、シャッター幕が開いた瞬間にフラッシュが発光する「先幕」です。光源をもった動く被写体を撮影する場合、シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光する「後幕」に設定すると、フラッシュの光で照らされた被写体の後ろに、光源が流れるように写ります。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)
- フラッシュ切換ボタンを押して、赤目軽減スローシンクロ [AUTO SLOW ◎]/[AUTO SLOW R ◎] を選んでおいてください。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [スローシンクロ] を選ぶ

3 ◀/▶ で [先幕][後幕] を選ぶ

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

5 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

お願い/ヒント

- オート [A]、シャッター優先 AE[S]、マニュアル露出 [M]、動画 [▦] のとき、スローシンクロは設定できません。
- スローシンクロで撮影するときは、三脚を使うことをおすすめします。(P30)
- スローシンクロで撮影するとき、フラッシュモードは赤目軽減スローシンクロ [AUTO SLOW ◎ :先幕時 / AUTO SLOW R ◎ :後幕時] のみ有効です。(P43)

近距離で撮る（マクロ機能）

カメラのレンズから被写体までの距離が6 cm ～50 cm のときマクロ[]に設定して撮影します。

AF のとき（T/W） 30cm ～ ∞

のとき（T 20cm ～ 50cm / W 6cm ～ 50cm）

[準備]

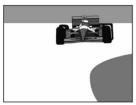
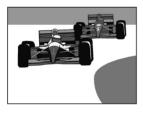
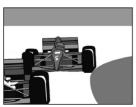
- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 フォーカスダイヤルをマクロ[]に合わせる

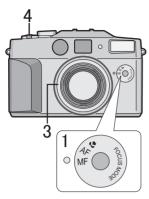
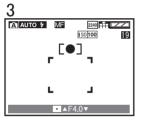
- [] が表示されます。

2 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう（オート撮影）(P36)」と同じです。

お願い/ヒント

- 動画 [] のときも、マクロ機能で撮影できます。
- マクロ機能設定時、光学ファインダー内は撮影範囲とのズレが生じます。液晶モニターをご使用ください。
- オート [A] でマクロ撮影する場合、絞り値が F4.0 ～ F8.0 までになります。
- 別売のクローズアップレンズ(DMW-LC52) を使うと、さらに近距離で撮ることができます。

クローズアップレンズ（別売）使用時

AF のとき（T/W） 16cm ～ 33cm

のとき（T 12cm ～ 20cm / W 4.5cm ～ 20cm）

連続して撮る(連写)

シャッターボタンを押し続けている間、連続して画像を撮影します。(4コマ/秒 最大8コマ)

[準備]

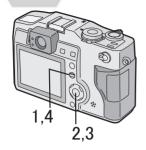
- 撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1　操作モードダイヤルを連写[]にする

2　シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しし続けて連続撮影する

お願い/ヒント

- 1秒に4コマ連写できるのはシャッタースピードが 1/25 より速いスピードで、同時にフラッシュを発光させないときです。
- フラッシュが光る場合は1枚しか撮れません。
- クオリティをTIFF[TIFF]に設定していると、連写できません。
- クオリティをファイン[]に設定していると、4コマまでしか連写できません。
- 動画[]のときは連写できません。
- 液晶モニターには1枚目の画像のみ表示されます。

手動でピントを合わせて撮る（マニュアルフォーカス）

風景撮影の際、無限遠に固定したい場合や、撮影する物体との距離が固定されていてオートフォーカスを働かせたくない場合などに使います。

[準備]

- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

1 フォーカスダイヤルを[MF]に合わせる

2 被写体をフォーカスエリアに入れる

- フォーカスエリアはAF設定時に選択したエリアになります。(例:スポット AFからマニュアルに変わったとき)

3 フォーカスリングを回す

- ピント付近になると液晶モニター中央にフォーカスアシスト[　]が表示され、ピントが合うと、[　] 内にフォーカス表示●が出て、合焦音が鳴ります。

4 撮影する

- 撮影手順は「撮影してみましょう(オート撮影)(P36)」と同じです。

撮る・応用

お願い/ヒント

- 動画[ ]のときも、マニュアルフォーカスで撮影できます。動画撮影が始まると、フォーカスは固定されます。
- 広角でピントを合わせると、望遠にしたときにピントが合っていないことがあります。再度、合わせ直してください。
- 望遠でピントを合わせても、その後ズーム動作をするとピントが合わない場合があります。再度、合わせ直してください。
- 暗いところではフォーカスアシストが出ません。
- 無限位置では無限遠表示 [∞] が液晶モニターに出ます。
- 一度ゆっくり同じ方向にリングを回してフォーカスアシストが表示された後、リングを少し戻すとピントが合いやすくなります。

コンバージョンレンズを使う

2,3

5

別売のテレコンバージョンレンズ(DMW-LT52) を使用すると、より望遠に、ワイドコンバージョンレンズ (DMW-LW52) を使用すると、より広角に撮ることができます。(コンバージョンレンズを本機に付けるときは、コンバージョンレンズアダプター(DMW-LA1)が必要です)

[準備]
- 操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選んでおいてください。(P33)

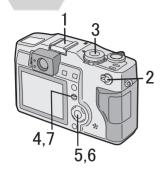
1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[コンバージョン]を選ぶ

3 ◀/▶ で [ON] を選ぶ

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

5 レンズリングを外す

6　コンバージョンレンズアダプターを付ける

7　テレコンバージョンレンズまたはワイドコンバージョンレンズを取り付ける

コンバージョンレンズアダプター（別売）

ワイドコンバージョンレンズ（別売）

テレコンバージョンレンズ（別売）

お願い/ヒント

- 動画 [▦] のときも、別売のコンバージョンレンズを使うことができます。
- テレコンバージョンレンズを付けているとき、ズームレバーをＷの方に動かすと、画面の端がトンネル状（ケラレ）になります。Ｔの方のみ動かしてください。
- コンバージョンレンズ使用時、内蔵フラッシュは [強制 OFF] になります。
- コンバージョンレンズ使用時は、液晶モニターをご使用ください。
- 水や油などがレンズにつく可能性がある場合は、別売のコンバージョンレンズアダプターと MC プロテクターを付けてレンズを保護してください。
- 詳しくはコンバージョンレンズの取扱説明書をお読みください。

外部フラッシュを使う

5,6

別売の外部フラッシュ（PE-28S/PE-36S）を付けると、内蔵フラッシュに比べて遠い距離からでも暗い場所での撮影ができます。

1 **ホットシューに外部フラッシュを取り付ける**

2 **カメラの電源スイッチを[ON]にする**

3 **カメラの操作モードダイヤルと撮影モードダイヤルを選ぶ**

4 **[MENU] ボタンを押す**

5 **▲/▼ で[外部フラッシュ]を選ぶ**

6 **◀/▶ で [PRESET] または [MANUAL] を選ぶ**

- [PRESET] を選ぶと、撮影モードに関係なく外部フラッシュ使用時の絞り値やシャッタースピード、ISO 感度が自動的に固定されます。絞り値を「F2.8」、ISO 感度を「100」に外部フラッシュを設定してください。（シャッタースピードは「1/60」に固定されます）
- 通常は [PRESET] を選ぶことをおすすめします。
- [MANUAL] を選ぶと、外部フラッシュ装着時もカメラの設定を自由に行えます。

7 **[MENU] ボタンを押す**

- メニュー画面が消えます。

8 **外部フラッシュの電源を入れる**

お願い/ヒント

- オート [A] のときは、[MANUAL] を選ぶことができません。
- 外部フラッシュで [MANUAL] を選んでいるとき、撮影モードダイヤルを絞り優先AE[A]、またはマニュアル露出 [M] にして使用し、カメラで設定した絞り値をフラッシュ側でも設定してください。(シャッター優先AE[S]では絞り値が変化するので適正露出が得られません。また、プログラムAE[P]では絞り値が固定できないので、外部フラッシュの調光が適切に働きません)
- 絞り優先 AE[A] で外部フラッシュを使うと、シャッタースピードは 1/30 ～ 1/125 の間になります。
- 動画 [動画アイコン] のときは、外部フラッシュを使うことができません。
- PE-28S の使用可能範囲は 10m、PE-36S 使用可能範囲は 13m です。
- PE-36S は、外部フラッシュが電源 OFF でも装着すると外部フラッシュモードになります。外部フラッシュを使用しない時は、PE-36S を外してください。
- 外部フラッシュ使用時は、内蔵フラッシュOFF で使うことをおすすめします。
- 外部フラッシュを取り付けると、置いたときに不安定になります。
- 持ち運びするときは、外部フラッシュを外してください。
- 詳しくは外部フラッシュの取扱説明書をお読みください。

■本機で選択できるシャッタースピードと絞りの値について

絞り優先AE[A]、シャッター優先AE[S]、マニュアル露出[M]で選択できるシャッタースピードや絞りの値は下表①のとおりです。シャッタースピードと絞り値は共に1/2EVステップとなります。

• 1/500より速いシャッタースピードのとき、絞り値は限定されます。(下表②参照)

①

シャッタースピード
8
6
4
2.8
2
1.4
1
1/1.4
1/2
1/3
1/4
1/6
1/8
1/10
1/15
1/20
1/30
1/45
1/60
1/90
1/125
1/180
1/250
1/350
1/500
1/750
1/1000

絞り値
8.0
6.7
5.6
4.8
4.0
3.4
2.8
2.4
2.0

②

シャッタースピード	絞り値
8～1/500	2.0～8.0
1/750	5.6～8.0
1/1000	8.0

撮影した静止画を再生する

1 操作モードダイヤルを再生 [▶] にする

- 最後に撮影した画像が再生されます。

2 ◀ で前の画像を再生する
▶ で次の画像を再生する

- 押すごとに前の(次の)画像が再生されます。
- 最後に撮影した画像の次は、最初の画像になります。

早送り/早戻しする

再生中に ◀/▶ を押し続ける

▶:早送り

◀:早戻し

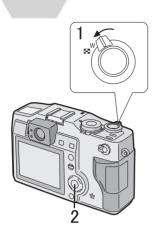
- ファイル内の番号が増 / 減していきます。◀/▶ を離すとその番号の画像が表示されます。

撮る・応用

見る

お願い/ヒント

- 本機は電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格 DCF(Design rule for Camera File system) に準拠しています。
- 本機で再生できるファイル形式はJPEG です。(JPEG 形式でも再生できないものもあります)
- 他機で撮影された静止画や動画を再生すると、画質が劣化したり、再生できない場合があります。
- 規格外のファイルを再生したときはフォルダー/ ファイル番号が [―] で表示され、画面が黒くなります。

音声付き静止画を再生する

■スピーカーの音量調整

1 操作モードダイヤルを再生 [▶] にする

2 ◀/▶で音声アイコン[♪]が付いた画像を選ぶ

3 [REVIEW/SET] ボタンを押して音声を再生する
- スピーカーから音声が聞こえます。

■ スピーカーの音量調整について

以下の手順で､スピーカーの音量を変えることができます。

1 操作モードダイヤルを再生 [▶] にする

2 [MENU] ボタンを押す

3 ▶ を押して、セットアップメニューにする

4 ▲/▼ で [スピーカ音量] を選ぶ

5 ◀/▶ で音量を調整する

6 [MENU] ボタンを押す

メニュー画面が消えます。

９枚ずつ画像を表示する（マルチ再生）

１画面に９枚の画像を表示することができます。

[準備]

操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。

1 画像再生中に、ズームレバーを[▦] の方に動かす

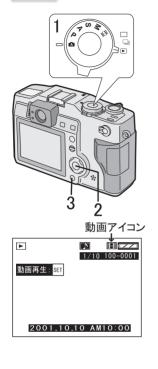
• マルチ再生（９コマ）になります。

2 ▲/▼/◀/▶ で画像をおくる

• 1 画面表示に戻るときは [🔍] の方に動かしてください。黄色で表示された番号の画像が１画面表示されます。

◀/▶で切り換える

見る

再生画面を拡大する(再生ズーム)

再生中の画像を拡大して表示することができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。

1 画像再生中に、ズームレバーを[🔍] の方に動かす

- ズームレバーを [🔍] の方に動かすごとに、ズーム倍率が大きくなります。
- ズームレバーを [▦] の方に動かすごとにズーム倍率が小さくなります。
- ▲/▼/◀/▶ で拡大位置を変えることができます。

■ 再生ズーム中に画像を削除するには

[MENU] ボタンを押してください。「この画像を削除しますか?」というメッセージが出たら、▲/▼ で「はい」を選び、[REVIEW/SET] ボタンを押してください。

お願い/ヒント

- 動画再生画面は、拡大することができません。
- 再生ズームは、拡大するほど画質が劣化します。
- 他機で撮影した画像を再生ズームできない場合があります。

撮影した動画を再生する

1 **操作モードダイヤルを再生 [▶] にする**

2 **◀/▶ で動画アイコン[▦]が付いたファイルを選ぶ**

3 **[REVIEW/SET] ボタンを押して動画を再生する**

- ▼ を押すと停止します。

早送り/早戻しする

動画再生中に ◀/▶ を押し続ける

▶：早送り

◀：早戻し

- 離すと通常再生に戻ります。

一時停止する

動画再生中に ▲ を押す

もう一度 ▲ を押すと一時停止が解除されます。

見る

お願い/ヒント

- 本機で再生できるファイル形式は QuickTime Motion JPEG です。
- パソコンや他機で記録された Motion JPEG ファイルを本機で再生できない場合があります。
- 大容量のメモリーカードを使用したとき、早戻しが遅くなる場合があります。

画像を削除する

2,3

（例：1枚削除を選んだ場合）

4（1枚削除）

4（複数画像削除）

カードに記録された画像を削除します。
一度削除した画像は復帰しません。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。
- プロテクトされていると、画像を削除できません。プロテクト設定を解除しておいてください。(P83)

1 枚削除

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [削除] を選び、▶ を押す

3 [1 枚] を選び、▶ を押す

4 ◀/▶ で画像を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す
- 選択した画像が削除されます。

6 [MENU] ボタンを２回押す
- メニュー画面が消えます。

複数画像削除

一度に削除できるのは 50 枚までです。

1 [MENU] ボタンを押す

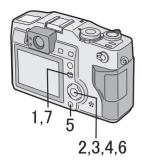
2 ▲/▼ で [削除] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で [複数画像] を選び、▶ を押す

4 ◀/▶ で画像を選び、▲ で設定する
- 設定した画像に [🗑] が表示されます。▼ を押すと設定が解除されます。

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す
- 選択された複数枚の画像が一度に削除されます。

6 [MENU] ボタンを２回押す
- メニュー画面が消えます。

2,3

4

全画像削除

一度削除した画像は復帰しません。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[削除]を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で[全画像]を選び、▶ を押す

4 「全ての画像を削除しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼ で[はい]を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- すべての画像が削除されます。

6 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

編集する

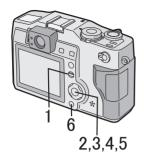
プリント情報をカードに書き込む (DPOF 設定)

2,3

4

5

プリントしたい画像、プリント枚数などの情報(DPOF データ)をカードに書き込むことができます。
DPOF とはDigital Print Order Formatの略です。DPOF 対応のシステムで活用できるようにカードのメモリー画像にプリント情報などを付加できるようにしたものです。

[準備]

• 操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。

1 枚設定

1 [MENU] **ボタンを押す**

2 **▲/▼ で[DPOF]を選び、▶ を押す**

3 **[1 枚設定] を選び、 ▶ を押す**

4 **◀/▶ で画像を選ぶ**

5 [REVIEW/SET] **ボタンを押す**

• DPOF 設定済みの画像の枚数変更だけをする場合、この手順は不要です。

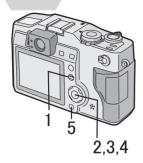
6 **▲/▼ でプリント枚数を選ぶ**

• プリント枚数は 1 ～ 99 枚まで設定できます。

7 [MENU] **ボタンを２回押す**

• メニュー画面が消えます。

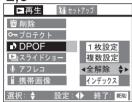
1 枚設定解除

「1 枚設定」の手順 1 ～ 5、7 を行ってください。

複数設定/解除

一度に設定できるのは 50 枚までです。

2,3

4

5

1 [MENU] **ボタンを押す**

2 **▲/▼で[DPOF]を選び、▶を押す**

3 **▲/▼で[複数設定]を選び、▶を押す**

4 **◀/▶で画像を選ぶ**

5 **▲/▼でプリント枚数を選ぶ**

- プリント枚数は 1 ～ 99 枚まで設定できます。

6 **手順** 4 **と** 5 **をくりかえし、最後に** [REVIEW/SET] **ボタンを押す**

- 複数枚の画像が一度に DPOF 設定されます。

お願い/ヒント

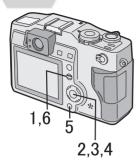
- DCF 規格に準拠していないファイルは DPOF 設定できません。(DCF とは Design rule for Camera File system の略で、(社)電子情報技術産業協会のファイルシステム規格に準拠した記録方式です)
- 他機でスライドショー設定された画像を本機で DPOF 設定するとスライドショー設定は解除され、DPOF スライドショー(P84)になります。
- 付属のソフト、[SD Viewer for DSC] で DPOF 設定された画像は本機では DPOF スライドショーできません。DPOF 設定は本機で行ってください。

DPOF 設定(つづき)

2,3

（例：全解除を選んだ場合）

4（全解除）

4（インデックス）

全解除

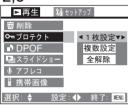
1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[DPOF]を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で[全解除]を選び、▶ を押す

4 「全てのDPOFマークを解除しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼ で[はい]を選ぶ

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- すべての DPOF 設定が解除されます。

インデックス設定/解除

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[DPOF]を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で[インデックス]を選び、▶ を押す

4 「インデックスプリントを設定しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼ で[はい]を選ぶ

- すでにインデックスが設定されている場合は、▲▼ で[設定][解除]を選んでください。

5 [REVIEW/SET] ボタンを押す

- すべての画像が設定 / 解除されます。

カードの画像をプロテクトする

2,3

カードに記録した大切な画像を誤って削除しないように、プロテクトすることができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。

1 枚設定/解除

1. [MENU] ボタンを押す
2. ▲/▼ で [プロテクト] を選び、▶ を押す
3. [1 枚設定] を選び、 ▶ を押す
4. ◀/▶ で画像を選ぶ
5. [REVIEW/SET] ボタンを押す
6. [MENU] ボタンを２回押す
   - メニュー画面が消えます。

複数設定/解除 / 全解除

手順は「プリント情報をカードに書き込む（DPOF 設定）」（P80 ～ P82）の同名の項目をお読みください。

編集する

お願い/ヒント

- 画像をプロテクトしても、フォーマットした場合は削除されます。
- プロテクトされたファイルを削除しようとすると、「この画像はプロテクトされています」または「削除できない画像があります」というメッセージが表示され、削除できません。ファイルを削除したいときは、プロテクト設定を解除してください。
- プロテクト設定は本機でのみ有効です。

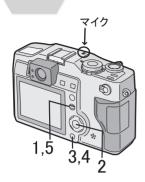
スライドショーを見る(自動再生)

2,3

(例:全画像を選んだ場合)

4

(例:全画像を選んだ場合)

6

カード内の指定した画像を自動的に連続させて見ることができます。

[準備]

• 操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[スライドショー] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で[全画像]/[DPOF]を選び、▶ を押す

• 全画像:全ての画像を見る
DPOF:DPOF 設定した画像を見る

4 ▲/▼/◀/▶ で[再生間隔][音声]を設定する

• 再生間隔: 1、2、3、5 秒の中から設定できます。
• 音声:[ON] または [OFF] を設定できます。[ON] を選ぶと、音声付き静止画をスライドショーさせることができます。

5 ▲/▼ で[スライドショー]を選ぶ

6 ▶ を押す

• スライドショーが始まります。
• [MENU] を押すと終了します。

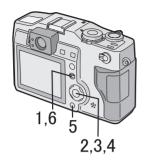
お願い/ヒント

• スライドショーで動画再生できません。
• 付属の CD-ROM のソフトウェア「SD Viewer for DSC」で編集された SD スライドショーを本機で見ることができます。104 ページをお読みください。
• 他機でスライドショー設定された画像を本機で DPOF 設定するとスライドショー設定は解除され、DPOF スライドショーになります。
• 付属のソフト [SD Viewer for DSC] で DPOF 設定された画像は本機では DPOF スライドショーできません。DPOF 設定は本機で行ってください。

撮影した後に音声を入れる(アフレコ)

2

3

4

撮影した画像に、後から 10 秒までのナレーションを入れることができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。
- 音声を入れたい画像を表示しておいてください。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [アフレコ] を選び、▶ を押す

3 [REVIEW/SET] ボタンを押して、録音を開始する

- すでに音声が入っている場合、アフレコすると元の音声はなくなります。
- すでに音声が入っている場合、「音声データを上書きしますか？」というメッセージが出ます。▲/▼ で [はい] を選び、[REVIEW/SET] ボタンを押して録音を開始してください。

4 [REVIEW/SET] ボタンを押して、録音を終了する

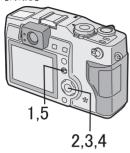
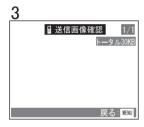
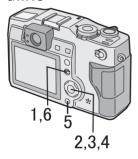
- [REVIEW/SET] ボタンを押さなくても、約 10 秒間録音すると、自動的に終了します。

5 [MENU] ボタンを２回押す

- メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- TIFF[TIFF] に設定された画像はアフレコできません。
- 動画をアフレコすることはできません。

携帯電話 /PHS に添付する画像をカードに書き込む(携帯画像)

携帯電話 /feel H" へ SD メモリーカード経由で受け渡しするための画像(320x240 画素)を作成します。
この機能を使うと DPOF 自動送信ファイル(AUTXFER.MRK)が SD メモリーカードに作られます。携帯電話 /feel H" の DPOF 機能によりファイル内の画像が自動的に選択され、簡単にメールに添付することができます。作成された画像は、SD メモリーカードスロット付きの一部の携帯電話 /feel H"(2001 年９月現在の対応機種は KX-HS100、KX-HF300、KX-HS110)で使えます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼ で [携帯画像] を選び、▶ を押す**

3 **▲/▼ で [画像作成] を選び、▶ を押す**

4 **◀/▶ で画像を選ぶ**

5 **[REVIEW/SET] ボタンを押す**

- 選択した画像が設定されます。
- 必要枚数分繰り返してください。(最大９枚まで)

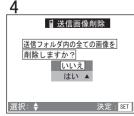
6 **[MENU] ボタンを押す**

- 約２秒間設定した画像が表示され、メニュー画面に戻ります。もう一度 [MENU] ボタンを押すと、メニューが消えます。
- 設定されているすべての画像を削除すると、再度、携帯画像を作成することができます。

[確認]

3

[削除]

4

送信用画像を確認する

1 [MENU] **ボタンを押す**

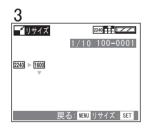
2 **▲/▼ で [携帯画像] を選び、▶ を押す**

3 **▲/▼ で [画像確認] を選び、▶ を押す**

4 **◀/▶ で画像を送り、確認する**

5 [MENU] **ボタンを２回押す**

• メニュー画面が消えます。

送信用画像を削除する

1 [MENU] **ボタンを押す**

2 **▲/▼ で [携帯画像] を選び、▶ を押す**

3 **▲/▼ で [画像削除] を選び、▶ を押す**

4 **「送信フォルダ内の全ての画像を削除しますか？」というメッセージが出ると ▲/▼ で [はい] を選ぶ**

5 [REVIEW/SET] **ボタンを押す**

• 送信フォルダ内の全ての画像が削除されます。

6 [MENU] **ボタンを押す**

• メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

• 携帯電話添付用画像の画像サイズは [320 x 240] 画素に設定されています。
• 設定されているすべての画像を削除すると、再度、携帯画像を作成することができます。
• 他機で撮影した画像から携帯画像を作成できない場合があります。

画像のサイズを変える(リサイズ)

2

3

撮影した画像のサイズを小さくすることができます。E メール添付やホームページ用に画像容量を小さくしたいときなどにこの機能の使用をおすすめします。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。
- サイズを変えたい画像を表示しておいてください。(ただし、サイズが [640 x 480] 画素以下の画像、およびアスペクト比が4:3 以外の画像はリサイズできません)

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[リサイズ]を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で変更したいサイズを選ぶ

- 1600 :1600 x 1200
- 1120 :1120 x 840
- 640 : 640 x 480

4 [REVIEW/SET] ボタンを押してサイズを決定する

5 「元の画像を削除しますか?」というメッセージが出ると、▲/▼ で[はい]または[いいえ]を選ぶ

6 [REVIEW/SET] ボタンを押す

7 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- 他機で撮影した画像は、リサイズできない場合があります。
- 動画やTIFF の画像をリサイズしたり、画像のサイズを大きくすることはできません。

画像を切り抜く(トリミング)

必要な部分のみを切り抜いて(トリミング)、引きのばすことができます。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。
- トリミングしたい画像を表示しておいてください。

2

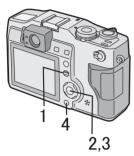
3

5

1 [MENU] **ボタンを押す**

2 **▲/▼ で[トリミング]を選び、▶ を押す**

3 **▲/▼ でサイズを選ぶ**

- 1600 :1600 x 1200
- 1120 :1120 x 840
- 640 : 640 x 480

4 [REVIEW/SET] **ボタンを押す**

5 **▲/▼/◀/▶ で画像を動かす**

6 [REVIEW/SET] **ボタンを押して決定する**

7 **「元の画像を削除しますか?」というメッセージが出ると、▲/▼で[はい]または[いいえ]を選ぶ**

8 [REVIEW/SET] **ボタンを押す**

9 [MENU] **ボタンを押す**

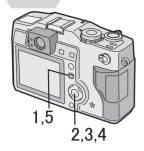
- メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- 他機で撮影した画像は、トリミングできない場合があります。
- 動画やTIFFの画像をトリミングしたり、画像のサイズを大きくすることはできません。
- 音声付き画像や画像のサイズが[640X480]画素の場合はトリミングできません。

カードをフォーマットする

通常、カードはフォーマット(初期化)する必要はありません。[メモリーカードエラー] とメッセージが表示された場合にフォーマットしてください。

[準備]

- 操作モードダイヤルを再生[▶]にしておいてください。

1 **[MENU] ボタンを押す**

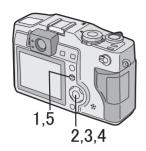
2 **▲/▼ で[フォーマット]を選び、▶を押す**

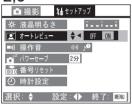
3 **「メモリーカード上の全てのデータを削除しますか？」というメッセージが出ると、▲/▼ で [はい] を選ぶ**

4 **[REVIEW/SET] ボタンを押す**

- フラッシュ/ アクセスランプが点灯し、カードがフォーマットされます。
- フォーマットすると、記録されていた画像やその他のデータを復帰させることはできません。

お願い/ヒント

- フォーマット中は電源を切らないでください。
- パソコンやその他の機器でフォーマットされたカードを使用する場合、もう一度本機でフォーマットしてください。
- カードがフォーマットできないときはお買い上げの販売店へご連絡ください。

液晶モニターの明るさを調整する

1. [MENU] ボタンを押す
2. ▶ を押して、セットアップメニューにする
3. ▲/▼ で [液晶明るさ] を選ぶ
4. ◀/▶ で明るさを調整する
5. [MENU] ボタンを押す
   - メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- 液晶の明るさは、電源を切ると初期状態に戻ります。

使いこなす

撮影した画像を自動で表示させる（オートレビュー設定）

2,3

オートレビューを [ON] にして撮影すると、撮った画像が自動的に液晶モニターに約２秒間表示されます。

[準備]
操作モードダイヤルを撮影系（単写[ ]または連写 [ ]）にしておいてください。

1 [MENU] ボタンを押す

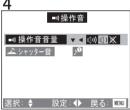
2 ▶ を押して、セットアップメニューにする

3 ▲/▼ で[オートレビュー]を選ぶ

4 ◀/▶ で [ON] を選ぶ

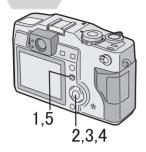
5 [MENU] ボタンを押す

• メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

• 連写 [ ]、オートブラケット、フォーカスブラケットのときは、最初の１画像のみオートレビューで表示されます。
• オートレビューを [ON] に設定しても、動画 [ ] のときは、オートレビューされません。
• 連写 [ ]、オートブラケット、フォーカスブラケット、TIFF、音声付き静止画を記録時はオートレビュー[ON] になります。

操作音を設定する

2,3

4

メニュー操作をしたときや、シャッターボタンを半押ししたときに、電子音を鳴らすように設定することができます。また、全押ししたときのシャッター音の種類も選ぶことができます。

■ 操作モードダイヤルが撮影系(単写[▭] または連写 [▭]) の場合

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▶ を押して、セットアップメニューにする

3 ▲/▼ で [操作音] を選び、▶ を押す

4 ▲/▼/◀/▶ で [操作音音量] と [シャッター音] をそれぞれ設定する

5 [MENU] ボタンを２回押す

• メニュー画面が消えます。

■ 操作モードダイヤルが再生[▶]の場合

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▶ を押して、セットアップメニューにする

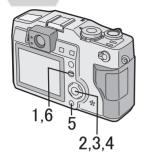
3 ▲/▼ で [操作音] を選ぶ

4 ◀/▶ で操作音の音量を選ぶ

5 [MENU] ボタンを押す

• メニュー画面が消えます。

省電力モードに設定する(パワーセーブ)

2,3

一定時間カメラの操作をしなかった場合、自動的に電源を OFF にします。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▶ を押して、セットアップメニューにする

3 ▲/▼ で [パワーセーブ] を選ぶ

4 ◀/▶ で設定時間を選ぶ

- ２分
- ５分
- １０分
- OFF(パワーセーブしません)

5 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- パワーセーブモードを解除するには、電源スイッチを [OFF] にしてからもう一度 [ON] にするか、またはシャッターボタンを押してください。
- AC アダプター使用時はパワーセーブが働きません。
- パワーセーブが働いたり、バッテリーの残量がなくなり充電を行う場合は、必ず本機の電源スイッチを [OFF] にしてから、AC アダプターの接続プラグを本機の DC IN 端子に差し込んでください。電源スイッチが [ON] の状態で AC アダプターを接続すると、誤作動する場合があります。

ファイル番号をリセットする

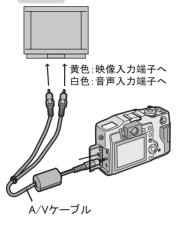
2,3

4

番号リセット

カメラ内のファイル番号を
リセットしますか？

いいえ
はい

選択：　決定：SET

本機はファイル番号をカメラ側で連続する通し番号でセットして記録しますので複数のカードを使用したとき、カード内の画像のファイル番号が連続していない場合があります。新しいカードに記録するときにファイル番号を0001から記録したいときや記録済みのカードのファイル番号を通し番号にしたいときはこの機能を使用してください。

[準備]
操作モードダイヤルを撮影系（単写［□］または連写［□］）に合わせておいてください。

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▶ を押して、セットアップメニューにする**

3 **▲/▼ で[番号リセット]を選び、▶ を押す**

4 **「カメラ内のファイル番号をリセットしますか？」というメッセージが出ると、▲/▼ で [はい] を選ぶ**

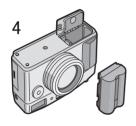
5 **[REVIEW/SET] ボタンを押して決定する**

6 **[MENU] ボタンを押す**

• メニュー画面が消えます。

使いこなす

テレビに画像を映して再生する

付属の A/V ケーブルを使ってカメラとテレビを接続すると、テレビに画像を表示して再生ができます。

[準備]
- 電源スイッチを[OFF]にし、テレビの電源も切っておいてください。

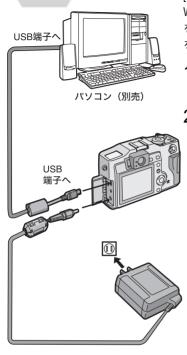
1. **カメラのA/V OUT 端子にA/V ケーブルを接続する**
2. **テレビの映像入力端子と音声入力端子に A/V ケーブルを接続する**
3. **テレビの電源を入れ、「外部入力」にする**
4. **電源スイッチを [ON] にし、操作モードダイヤルを再生 [▶] にする**
   - 画像がテレビに表示されます。

お願い/ヒント

- 撮影モードでは、テレビに画像を表示させることはできません。
- 付属の専用ケーブル以外は使わないでください。
- テレビの説明書もお読みください。

使い終わったら

1,2

4

デジタルカメラを使い終わったら、以下の手順の後、別売のソフトケースなどに入れて保管することをおすすめします。

1 **電源スイッチを [OFF] にする（P27）**

2 **カードを取り出す（P25）**

3 **モニターフードを取り外す（P29）**

4 **バッテリーを外す（P22）**

- 日付のバックアップは、約 5 時間後に消えます。

5 **レンズキャップを付ける（P28）**

使いこなす

パソコンと接続する

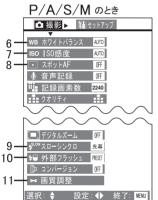
[準備]
Windows でご使用の場合のみ、付属の CD をパソコンから起動し、USB ドライバーをインストールしておいてください。

1　付属の USB 接続ケーブルで、本機とパソコンを接続する

2　本機にメモリーカードを入れ、操作モードダイヤルを再生 [▶] にし、電源スイッチを [ON] にする

Windowsの場合

[マイコンピュータ] フォルダにドライブが表示されます。

• 初めて接続したときは、Windowsのプラグアンドプレイにより、デジタルカメラを認識するために必要なドライバーが自動的にインストールされ、その後 [マイコンピュータ] フォルダにドライブが表示されます。

Macintoshの場合

画面上にドライブが表示されます。

お願い/ヒント

• 接続時は、本機の電源として AC アダプターを使うことをおすすめします。
• 詳しくは別冊の「USB 接続キット編」をお読みください。

メニュー画面の表示

撮影系メニュー画面

- 左図に番号記載のない項目は、同名のものを参照してください。

1 音声記録(P45)
2 記録画素数(P46)
3 クオリティ(P47)
4 デジタルズーム(P41)
5 コンバージョン(P68)
6 ホワイトバランス(P60)
7 ISO 感度(P62)
8 スポット AF(P63)
9 スローシンクロ(P64)
10 外部フラッシュ(P70)
11 画質調整(P59)
12 液晶明るさ(P91)
13 オートレビュー(P92)
14 操作音(P93)
15 パワーセーブ(P94)
16 番号リセット(P95)
17 時計設定(P35)

再生系メニュー画面

- 左図に番号記載のない項目は、撮影系メニューの同名のものを参照してください。

18 削除(P78)
19 プロテクト(P83)
20 DPOF(P80)
21 スライドショー(P84)
22 アフレコ(P85)
23 携帯画像(P86)
24 リサイズ(P88)
25 トリミング(P89)
26 フォーマット(P90)
27 スピーカ音量(P74, P77)

使用上のお願い

デジタルカメラについて

磁気が発生するところや電磁波が発生するところ(電子レンジ、テレビやゲーム機など)からはできるだけ離れて使う

- テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で画像や音声が乱れることがあります。
- スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、画像がゆがんだりします。
- マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響をおよぼし、画像や音声が乱れることがあります。
- 本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーや AC アダプターを一度外してから、あらためて接続し電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

- 近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影映像や音声が悪くなることがあります。

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

- かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがあります。
- ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

浜辺など砂やほこりの多いところで使うときは、内部や端子部に砂やほこりが入らないようにする また海水などでぬらさないようにする

- 砂やほこりは、本機の故障につながります。
- 万一海水がかかったときは、よく絞った布でふき、その後、乾いた布でふいてください。

本機を持ち運びするときは、落としたり、ぶつけたりしない

- 強い衝撃が加わると、外装ケースがこわれ、故障します。

お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤を使わない

- お手入れの際は、バッテリーを外しておくか、電源プラグをコンセントから抜いておきます。
- 溶剤を使うと外装ケースが変質したり、塗装のはげるおそれがあります。
- 本機は、やわらかい、乾いた布でほこりをふいてください。よごれがひどいときは、台所用中性洗剤を水でうすめ、布をひたし、よく絞ってよごれをふき、乾いた布で仕上げてください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

使用上のお願い(つづき)

バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなる、または、低くなるほど影響が大きくなります。

使用後は、必ずバッテリーを外す

- 付けたままにしておくと、デジタルカメラの電源スイッチが[OFF]であっても、絶えず微少電流が流れています。これをそのままにしておくと、過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなるおそれがあります。

出かけるときは予備のバッテリーを準備する

- 使用したい時間の３～４倍のバッテリーを準備してください。スキー場などの寒冷地では撮影できる時間がより短くなります。
- 旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるように AC アダプターも忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグも必要です。(P105)

バッテリーの端子部に付いたほこりなどは取る

バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認する

- 端子部が変形したまま本体に付けると、本体をいためます。

使用後は必ずカードを取り出し、バッテリーを外す、または、電源プラグをコンセントから抜く

- バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。(推奨温度：１５℃～２５℃、推奨湿度：４０％～６０％です)
- 極端に低温、高温になるところで保管すると、バッテリーの寿命が短くなることがあります。
- 高温•多湿、油煙の多いところでは、端子がさびたりして故障の原因となります。
- 長期間保管する場合、1年に1回は充電し、バッテリー残量がなくなってから、カメラから取り外して再保管することをおすすめします。

不要(寿命になったなど)バッテリーは火中などに投入しない

- 加熱や火中などに投入すると、破裂するおそれがあります。
- バッテリーには、寿命があります。

不要になった電池(バッテリー)は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

使用済み充電式電池(バッテリー)の届け先

- 下記の充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。
- お買い上げの販売店または最寄りの松下電器の販売店•サービスセンター•販売会社へ。もしくは(社)電池工業会にご確認ください。
(ホームページ :http://www.baj.or.jp)

使用済み充電式電池(バッテリー)の取り扱い

- 端子部をセロハンテープなどでおおい、リサイクル箱へ
- 分解しないでリサイクル箱へ

リチウムイオン
電池使用

つゆつきについて

夏に冷蔵庫から出したビンなどに、しばらくすると水滴がつきます。この現象が本機に起こった場合が「つゆつき」です。
つゆつきが起こっていると撮影できなくなります。つゆつきを起こさない心がけと、起こったときの処置を正しく守ってください。

つゆつきが起こる原因は
下記のように温度差、湿度差があると起こります。

- 寒い屋外から暖かい屋内に持ち込んだとき
- 冷房のきいた車などから車外へ出したとき
- 寒い部屋を急に暖房したとき
- エアコンなどの冷風がデジタルカメラに直接当たっていたとき
- 湿気がたち込めるなど湿度の高いところ

つゆつきが起こった場合の処置
電源スイッチを[OFF]にし、1時間ほどそのままにしておいてください。周囲の温度になじむと、くもりが自然に取れます。

メモリーカードについて

フラッシュ/ アクセスランプが点灯中(カードにアクセス中)は、カードカバーを開けてカードを抜いたり、電源を切らない、また振動や衝撃を与えない
カードを高温になるところや直射日光のあたるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない。また、折り曲げたり、落としたり、強い振動を与えない

- カードが破壊されるおそれがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失するおそれがあります。

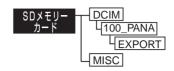
使用後は、必ずカードを取り出して、保管する

- 使用後や保管、持ち運び時は収納袋に入れてください。
- カード裏の端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また手などで触れないでください。

画像データについて

- 不適切な取り扱いにより故障した結果、記録したデータが破壊されたり、消滅したりすることがあります。記録したデータの消滅による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 「しばらくお待ちください」が表示されているときは絶対に、電池を取り外したり、AC アダプター(付属)を抜いたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。データの破壊および、故障の原因になります。

使用上のお願い（つづき）

液晶モニターについて

- 温度差が激しい場所では、液晶モニターにつゆがつくことがあります。柔らかい乾いた布でふいてください。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒冷地などで本体が冷えきっている場合、電源を入れた直後は液晶モニターが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。
- 液晶モニターは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯（赤や青、緑の点）することがあります。これは故障ではありません。液晶モニターの画素については99.99％以上の高精度管理をしておりますが0.01％以下で画素欠けするものがあります。

SDスライドショーについて

付属のCD-ROMのソフトウェア「SD Viewer for DSC」で編集されたSDスライドショーのデータが記録されているカードを本機に入れ、再生モードで電源を入れると、「SD スライドショーを開始しますか？」というメッセージが出ます。「はい」を選んでREVIEW/SETボタンを押すと、SDスライドショーが始まります。通常再生にするときは「いいえ」を選んでREVIEW/SETボタンを押してください。

フォルダー構造について

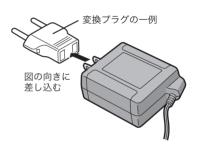
データを記録したカードをパソコンに入れると、フォルダーが下図のように表示されます。

- 100_PANAフォルダーなどには最大で999枚の画像を記録できます。
- MISCフォルダーにはDPOF設定されたファイルが記録されます。
- EXPORT　フォルダーには携帯画像のファイルが記録されます。

海外で使う

撮ったものを海外で見るには

テレビに接続して見る場合、日本と同じテレビ方式(NTSC)の映像/音声入力端子付テレビと付属のA/Vケーブルなどが必要です。

日本と同じNTSC方式を採用している国、地域

- アメリカ合衆国
- アンチグア・バーブーダ
- イエメン（一部地域）
- 英領バーミューダ諸島
- エクアドル
- エルサルバドル
- ガイアナ
- カナダ
- キューバ
- グァテマラ
- グァム島
- グレナダ
- コスタリカ
- コロンビア
- ジャマイカ
- スリナム
- セントクリストファー・ネイビス
- セントビンセント・グレナディーン諸島
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ共和国
- ドミニカ国
- トリニダード・トバゴ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バハマ
- バルバドス
- フィジー
- フィリピン
- プエルトリコ
- 米領サモア
- ベトナム（一部地域）
- ベネズエラ
- ベリーズ
- ペルー
- ボリビア
- ホンジュラス
- マーシャル諸島
- マリアナ諸島
- ミクロネシア連邦
- ミャンマー
- メキシコ

ACアダプターは、全世界の電源電圧(100V、120V、220V、240V)、電源周波数(50Hz、60Hz)でご使用いただけるように設計しております。
市販の変圧器などを使用すると、故障するおそれがあります。

ACアダプター(付属)を海外で使用するには

ACアダプターは、自動で全世界の電源電圧(100V、120V、220V、240V)、電源周波数(50Hz、60Hz)に切り換わるように設計されています。ただし、国、地域、滞在先によって電源コンセントの形状は異なります。海外旅行をされる場合は、次のページの表を参考に電源コンセントの形状を確かめ、その国、地域、滞在先に合ったプラグを準備してください。変換プラグは、お買い上げの販売店にご相談のうえ、お求めください。充電のしかたは、国内と同じです。

その他

海外で使う(つづき)

主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

北米					
カナダ	A	アメリカ合衆国	A		
ヨーロッパ・旧ソ連地域					
アイスランド	C	ノルウェー	C	アイルランド	C
ハンガリー	C	イギリス	B.BF	フィンランド	C
イタリア	C	フランス	C	オーストリア	C
ベルギー	C	ギリシャ	C	ポーランド	B.C
オランダ	C	ポルトガル	B.C	スイス	B.C
ルーマニア	C	スウェーデン	C	ロシア	C
スペイン	A.C	ウクライナ	C	デンマーク	C
ベラルーシ	C	ドイツ	C	カザフスタン	C
アジア					
インド	B.C	モルジブ	B	インドネシア	B.C
バングラデシュ	C	シンガポール	B.BF	フィリピン	A.C.S
タイ	A.BF.C	ベトナム	A.C	大韓民国	A.B.C
中華人民共和国	A.B.BF.C.S	スリランカ	B	マカオ特別行政区	B.C
香港特別行政区	B.BF	マレーシア	B.BF.C	ネパール	C
モンゴル	C	パキスタン	B.C	台湾	A
オセアニア					
オーストラリア	S	トンガ	S	グァム島	A
ニュージーランド	S	タヒチ	C	フィジー	S
中南米					
アルゼンチン	BF.C.S	バハマ	A	コロンビア	A
プエルトリコ	A	ジャマイカ	A	ブラジル	A.C
チリ	B.C	ベネズエラ	A	ハイチ	A
ペルー	A.C	パナマ	A	メキシコ	A
中東					
イスラエル	C	クウェート	B.C	イラン	C
ヨルダン	B.BF				
アフリカ					
アルジェリア	A.B.BF	ザンビア	B.BF	エジプト	B.BF.C
タンザニア	B.BF	カナリア諸島	C	南アフリカ共和国	B.C
ギニア	C	モザンビーク	C	ケニア	B.C
モロッコ	C				

タイプ	A	B	BF	C	S
形状					
変換プラグ	不要です				

警告表示

メモリーカードがありません
メモリーカードを入れてください。

このメモリーカードはプロテクトされています
メモリーカードのロックを解除してください。

メモリーカード扉が開いています
メモリーカード扉を閉じてください。

表示できる画像がありません
画像を記録する、または画像が記録されたメモリーカードを入れてから再生してください。

メモリーカード残量がありません
新しいカードに取りかえる、または不要なデータを削除してください。

レンズキャップを外して SET を押して下さい
レンズキャップを外し、[REVIEW/SET] ボタンを押してください。

メモリーカードエラー
メモリーカードへのアクセスに失敗しました。
もう一度カードを入れてください。

リードエラー
データの読み込みに失敗しました。
もう一度再生してください。

ライトエラー
データの書き込みに失敗しました。
カードを抜くか、一度電源を[OFF]にしてから、再度 [ON] にして記録してください。またはカードが破壊されている可能性があります。

この画像はプロテクトされています
画像のプロテクトを解除してから削除や上書きをしてください。

この画像は削除できません / 削除できない画像があります
画像のプロテクトを解除してから削除してください。

設定枚数をこえました
複数削除、プロテクト、DPOF 設定で１度に設定できる枚数を超えています。一旦決定してから、再度続いている設定をしてください。

この画像は設定できません / 設定できない画像があります
DCF 規格に準拠していない画像は DPOF 設定できません。

メモリーカードエラー・フォーマットしますか
本機では認識できないフォーマットです。本機でフォーマットしなおしてください。

故障かな？と思ったら

1:　電源が入らない。

1-1: バッテリーやACアダプターは正しく接続されていますか。接続を確認してみてください。

1-2: バッテリーは十分に充電されていますか。十分に充電されたバッテリーをお使いください。

2:　電源が入っていてもすぐに切れる。

2-1: バッテリーが消耗していませんか。バッテリーを充電するか、十分に充電されたバッテリーを付けてください。

2-2: つゆつきになっていませんか。寒いところから暖かいところにデジタルカメラを持ち込んだときなど、内部につゆつきが発生することがあります。つゆつきがなくなるまでお待ちください。

3:　画像が撮れない。

3-1: メモリーカードが入っていますか。

3-2: 操作モードダイヤルが撮影モードに設定されていません。

3-3: メモリー残量がありません。撮影する前にいくつかの画像を消去してください。

4:　液晶モニターに画像が出ない。

4:　液晶モニターが[OFF]になっていませんか。

5:　液晶モニターがまぶしかったり、暗かったりする。

5:　液晶モニターの明るさを正しく調整してください。

6:　液晶モニターの表示、または画像がフォーカスされない。

6:　フォーカスモードを正しく設定してください。

7:　フラッシュが発光しない。

7:　フラッシュモードを発光禁止モードに設定しています。フラッシュモードを変更してください。

8:　再生できない。

8-1: メモリーカードが入っていますか。

8-2: メモリーカードに画像がありません。

8-3: 操作モードダイヤルが再生[▶]に設定されていません。

9:　テレビに画像が出ない。

9-1: テレビと正しく接続されていますか。確認してください。

9-2: テレビはビデオ入力モードに設定してください。

10:　パソコンに接続して画像を転送できない。

10:　パソコンと正しく接続されていますか。確認してください。

仕様

電源	DC 9 V
消費電力	4.3 W(液晶 ON 撮影時) 2.7 W(液晶 OFF 撮影時) 3.3 W(再生時)
カメラ有効画素数	3.9M 画素
撮像素子	1/1.76 型 CCD　総画素数 401 万画素 , 補色フィルター
レンズ	光学 3 倍ズーム f=7-21 mm(35 mm フィルムカメラ換算:33-100 mm)/F2.0-2.5
デジタルズーム	最大 2 倍(可変)
フォーカス	AF センサー, コントラスト検出併用 オート / マクロ / マニュアル (アシスト表示あり) ノーマル / スポット AF 切替え
撮影範囲	オート:30 cm- ∞ , マクロ時:6 cm(W 端時)/ 20 cm(T 端時)-50 cm
シャッターシステム	電子シャッター連動メカニカルシャッター
連写撮影	4 コマ / 秒　最大 8 コマ(スタンダード)/ 最大 4 コマ(ファイン)
動画撮影	320 x 240 画素、音声付き
ISO 感度	オート /100/200/400
シャッタースピード	オート撮影 / プログラム AE(ISO オート)時: 1/8-1/1,000 プログラム AE(ISO 固定)/ 絞り優先 AE 時: 1-1/1,000 シャッター優先 AE/ マニュアル露出時:8-1/1,000 動画:1/30-1/1,000
ホワイトバランス	オート / 晴天 / 曇り / 白熱灯 / 蛍光灯 / フラッシュ/ セットモード
露出(AE)	プログラム AE(P), 絞り優先 AE(A), シャッター優先 AE(S), マニュアル露出(M), 露出補正(0.25EV ステップ、-2 ～ +2EV)
測光方式	評価測光 / 中央重点測光 / スポット測光
液晶モニター	2.5 型低温ポリシリコン TFT 液晶(20 万画素)
光学ファインダー	実像式ズームファインダー(視度調整付き) (-2.8 ～ +0.8dioptor、視野率 82%)
フラッシュ	内蔵式

仕様(つづき)

フラッシュ(つづき)	撮影範囲:W端時:約10 cm～4.5 m/ T端時:約20 cm～3.5 m オート/赤目軽減オート/強制/赤目軽減強制/ 赤目軽減スローシンクロ/強制オフ,後幕/先幕 スローシンクロ切り替え,発光量調整 汎用外部フラッシュ対応(ホットシュー), PRESET/MANUAL 切替え
マイク	モノラル
スピーカー	モノラル
記録メディア	SD メモリーカード／マルチメディアカード
記録画素数	2240x1680/1600x1200/1120x840/640x480/ 320x240(動画)
クオリティ(圧縮率)	TIFF/ファイン/スタンダード
記録画像ファイル形式	
静止画	JPEG(DCF準拠)/TIFF(RGB)、DPOF対応
音声付き静止画	JPEG(DCF準拠)+640x480画素QuickTime Motion JPEG(音声付き静止画)
動画	QuickTime Motion JPEG(音声付き動画)
インターフェース	
デジタル	USB
アナログビデオ/ オーディオ	NTSCコンポジット/オーディオライン出力(モノラル)
端子	
USB	5pin Mini USB
アナログビデオ/ オーディオ	Φ2.5 mm ジャック
DC IN	EIAJ タイプ3 ジャック
寸法(幅 x 高さ x 奥行)	127.5 x 82 x 63.4 mm(突起部除く)
質量	約360 g(本体) 約450 g(メモリーカード、電池含む)
専用ACアダプター	
定格出力	DC 9.5 V　1.0 A
定格入力	AC100-240 V　50/60 Hz
入力容量	21 VA(100 V)、31 VA(240 V)
リチウムイオンバッテリーパック	
電圧/容量	7.2 V, 1400 mAh

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い･お手入れなどのご相談は･･･
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は･･･

●修理は、サービス会社･販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
●その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■保証書 (別添付)

お買い上げ日･販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間 : お買い上げ日から本体 1 年間
「本体」にはソフトウェアの内容は含みません

■修理を依頼されるとき

この説明書をよくお読みのうえ、直らないときは、まず接続している電源を外して、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書をそえてご持参ください。

●保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、デジタルカメラの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理料金の仕組み

修理料金 は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

保証とアフターサービス（よくお読みください）（つづき）

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル／パナソニック　お客様ご相談センター

電話　フリーダイヤル　0120-878-365（パナは365日）

FAX　フリーダイヤル　0120-878-236

365日／受付9時～20時

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

修理に関するご相談

ナショナル／パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号）　0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

ナショナル／パナソニック　修理ご相談窓口

北海道地区

北海道地区		
札幌　札幌市厚別区厚別南2丁目17-7　☎(011)894-1251 旭川　旭川市2条通21丁目左1号　☎(0166)31-6151	帯広　帯広市西19条南1丁目7-11　☎(0155)33-8477	函館　函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）　☎(0138)48-6631

東　北　地　区

青森 青森市大字八ッ役 字矢作1-37 ☎(017)739-9712	岩手 盛岡市羽場13地割 30-3 ☎(019)639-5120	山形 山形市流通センター 3丁目12-2 ☎(023)641-8100
秋田 秋田市御所野湯本 2丁目1-2 ☎(018)826-1600	宮城 仙台市宮城野区扇町 7-4-18 ☎(022)387-1117	福島 福島県安達郡本宮町 字南ノ内65 ☎(0243)34-1301

首　都　圏　地　区

栃木 宇都宮市御幸町 194-20 ☎(028)689-2555	埼玉 桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960	山梨 甲府市下飯田2丁目 1-27 ☎(055)222-5171
群馬 高崎市大沢町229-1 ☎(027)352-1109	千葉 千葉市中央区 星久喜町172 ☎(043)208-6034	神奈川 横浜市港南区日野 5丁目3-16 ☎(045)847-9720
水戸 水戸市柳河町309-2 ☎(029)225-0249	東京 東京都世田谷区 宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780	新潟 新潟市東明1丁目 8-14 ☎(025)286-7725
つくば つくば市花畑2丁目 8-1 ☎(0298)64-8756		

中　部　地　区

石川 石川県石川郡 野々市町稲荷 3丁目80 ☎(076)294-2683	長野 松本市大字笹賀 7600-7 ☎(0263)58-0073	岡崎 岡崎市岡町南久保28 ☎(0564)55-5719
富山 富山市寺島1298 ☎(076)432-8705	静岡 静岡市西島765 ☎(054)287-9000	岐阜 岐阜県本巣郡北方町 高屋太子2丁目30 ☎(058)323-6010
福井 福井市開発4丁目 112 ☎(0776)54-5606	名古屋 名古屋市瑞穂区 塩入町8-10 ☎(052)819-0225	高山 高山市花岡町3丁目82 ☎(0577)33-0613
		三重 久居市森町字北谷 1920-3 ☎(059)255-1380

近　畿　地　区

滋賀 守山市勝部6丁目 2-1 ☎(077)582-5021	大阪 大阪市北区本庄西 1丁目1-7 ☎(06)6359-6225	和歌山 和歌山市中島499-1 ☎(073)475-2984
京都 京都市南区上鳥羽 石橋町20-1 ☎(075)672-9636	奈良 大和郡山市椎木町 404-2 ☎(0743)59-2770	兵庫 神戸市中央区 琴ノ緒町3丁目2-6 ☎(078)272-6645

保証とアフターサービス(よくお読みください)(つづき)

中国地区		
鳥取 鳥取市安長295-1 ☎(0857)26-9695 米子 米子市米原4丁目2-33 ☎(0859)34-2129 松江 松江市西津田2丁目10-19 ☎(0852)23-1128	出雲 出雲市渡橋町416 ☎(0853)21-3133 浜田 浜田市下府町327-93 ☎(0855)22-6629 岡山 岡山県都窪郡早島町矢尾807 ☎(086)292-1162	広島 広島市西区南観音8丁目13-20 ☎(082)295-5011 山口 山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23 ☎(083)986-4050

四国地区		
香川 高松市勅使町152-2 ☎(087)868-9477 徳島 徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108 ☎(088)698-1125	高知 南国市岡豊町中島331-1 ☎(088)866-3142	愛媛 松山市土居田町750-2 ☎(089)971-2144

九州地区		
福岡 春日市春日公園3丁目48 ☎(092)593-9036 佐賀 佐賀市本庄町大字本庄896-2 ☎(0952)26-9151 長崎 長崎市東町1949-1 ☎(095)830-1658	大分 大分市萩原4丁目8-35 ☎(097)556-3815 宮崎 宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2 ☎(0985)85-6530 熊本 熊本市健軍本町12-3 ☎(096)367-6067	天草 本渡市港町18-11 ☎(0969)22-3125 鹿児島 鹿児島市与次郎1丁目5-33 ☎(099)250-5657 大島 名瀬市矢之脇町10-5 ☎(0997)53-5101

沖縄地区	
沖縄 浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0501

QuickTimeおよびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。QuickTimeは米国および他の国々で登録された商標です。

愛情点検　長年ご使用のデジタルカメラの点検を！

こんな症状はありませんか	・電源コードやプラグが異常に熱い ・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・水や異物が入った ・映像が乱れたり、きれいに映らない ・その他の異常や故障がある

このような症状のときは、使用を中止し、故障や事故の防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　月　日	品　番	DMC-LC5
販　売　店　名	☎（　　）		
お客様ご相談窓口	☎（　　）		

松下電器産業株式会社

AVCネットワーク事業グループ

〒571ー8505　大阪府門真市松生町1番4号

システム事業グループ

〒571ー8503　大阪府門真市松葉町2番15号

F1001Mm2012(3000 Ⓖ)